

和仏法律学校講義録

著者	金井 延, 下村 宏, 栗津 ?亮, 有賀 長文, 杉本 貞治郎
出版者	和佛法律學校
巻	2-14
ページ	1-44
発行年	1899-08-25
URL	http://hdl.handle.net/10114/4680

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4

和蘭

每月一回

目次

經濟學 (自八七頁 至一〇二頁) 法學博士 金井延

財政學 (自四九頁 至七二頁) 法學士 下村宏

商法保險 (自五三頁 至六八頁) 法學士 粟津清亮

財政學 (自三四頁 至四〇頁) 法學士 有賀長文

商法總則 (自七八頁 至八八頁) 法學士 杉本貞治郎

蘭學

第拾四號

金井延師經濟學前號
九二頁以下印刷前後セシニ付キ補正ス

和佛經濟學叢書

經濟學叢書

每月貳回

目次

經濟學 (自八七頁至一〇三頁) 法學博士金井延

財政學 (自四九頁至七二頁) 法學士下村宏

商法保險 (自五三頁至六八頁) 法學士粟津清亮

財政學 (自二三頁至四〇頁) 法學士有賀長文

第拾四號

商法總則 (自七八頁至八八頁) 法學士杉本貞治郎

090
1899

2-1-14

ナレハ論者ノ如ク二者ヲ混同スヘシト謂フハ寧ロ學問ノ退歩ニシテ進化ノ
法則ニ反スレハナリ成程舊派學者ノ論スルカ如ク經濟現象ハ單獨のニ存在
シ敢テ他ノ社會現象ニ關セスト爲スハ大ナル誤謬ナリ經濟學ハ法律政治道
德等ノ現象ト全ク分離シテ研究スルコトヲ得サルモノナリ若シ法律政治道
德等ヲ離レテ研究セハ經濟學ハ全ク機械的ノ學問ト爲リ丁ルヘシ故ニ經濟
學ヲ研究スルニハ宜シク法律政治倫理等ノ學ヲ參考セサルヘカラサルナリ
之ヲ要スルニ近時ノ經濟學ハ之ヲ抽象的ノ學問ト爲サス歴史ニ徴シ且社會
一般ノ事情ニ鑑ミテ研究スルニ至レリ其レ然リ然レトモ社會一般ノ事情ヲ
斟酌セサルヘカラサルノ理由ヲ以テ經濟學ハ社會ノ總テノ現象ヲ包含スル
モノナリ隨テ社會學ト同一ノモノナリト謂フ斷定ヲ下スコト能ハス蓋シ社
會學竝ニ經濟學ハ各獨立シテ進歩シタルモノナリ然ルヲ今此二者ヲ併合セ
ントスルハ進化ノ法則ニ反スルモノト謂ハサルヲ得ス事物ノ進歩ハ分化ス
ルニ由テ始メテ完キヲ得ルモノナリ例ヘハ古代ニ於ケル「メニユ」ノ法典印
度法典ノ如キハ現今ニ於ケル法律上ノ現象ノミヲ規定シタルモノニ非スシ

ヲ宗教道德政治上ノ事柄ヲモ規定シタルモノナリ然ルニ世ノ進歩ニ隨ヒテ此等ノ事項皆分別セラル、ニ至レルナリ學問ニ於ケルモ亦然リ彼ノ希臘ニ於ケル哲學ノ如キハ其中ニ於テ天文物理政治倫理動植物等ノ事ヲモ論スヘキモノト爲セリ然ルニ今日ニ至リテハ此等ノ事ヲ論スル學問ハ十數種ニ分レテ研究セラル、ニ非スヤ是レ「スペンサー」等ノ言フカ如ク進化ノ法則ナリトス然ルニ社會學ト經濟學トヲ併合スヘシトスルハ進化ノ法則ニ反スル議論ナリ故ニ社會學ニ於テハ社會現象ノ全體ヲ研究シ經濟學ハ社會現象ノ或一部分ニ關シテ研究スル學問ナリト爲スコト極メテ正當ナリト謂フヘキナリ之ヲ喻フレハ社會學ハ内閣ノ如ク經濟學ハ各省ノ如シ各省ニ各特別ノ職務アルカ如ク經濟學上ニ論スヘキ特別ノ現象モ亦其數頗ル多シ然ルニ内閣ト各省トカ互ニ相關係スルカ故ニ二者同一ナリト謂フヘカラサルカ如ク社會學ト經濟學トハ相關係スル所アルカ故ニ同一ナリト謂フヘカラサルナリ故ニ社會學ト經濟學トヲ併合スヘシト言フハ恰モ内閣ト各省トヲ併合スヘシト言フニ異ナラス是レ進化ノ法則ニ反スルモノナルカ故ニ斯ル說ニハ斷然

反對セサルヲ得ス

「ケリー」氏一派ノ見解ハ畢竟廣キニ失スルモノナリ之ニ反シテ英人「マクラウド」氏ノ流ヲ酌ム者ハ斯學ヲ以テ財貨ノ交易ニ關スルモノト爲セリ是レ狭キニ過タルノ定義ニシテ取ルニ足ラサルナリ交易ノ事ハ生産ノ事分配ノ事等ト全ク分離シテ攻究スルコト能ハサルモノナリ

註 「ケリー」氏等ノ定義ハ廣キニ失スルニ反シテ英人「マクラウド」氏ハ經濟學ヲ最も狭キ意義ニ解シ經濟學ハ財貨ノ交易ニ關スル學ナリト曰ヘリ蓋シ人類ノ個々別々孤立のニ生計ヲ營ミタル原人時代ニハ尙ホ未タ經濟現象アリト謂フヘカラス經濟現象ハ全ク人類間ニ貨物ノ交易ノ始マリタルニ起因スルモノナリ然レトモ交易ノミカ經濟現象ナリト謂フコトヲ得ス交易ハ經濟現象ノ一種ニ相違ナキモ交易現象ハ生産分配等ノ現象ト分離シテ研究スルコトヲ得サルモノナリ若シ此等ヲ個々別々ニ分離シテ研究スルハ恰モ人身ノ生理ヲ攻究スルニ當リテ耳目鼻口胃腸肺臟心臓等ヲ個々別々ニ分離シテ研究スルニ異ナラス成程目若クハ肺其者ノ構造ハ或ハ此ノ分離的研究法ニ

據リテ之ヲ確メ得ヘシトスルコトヲ得ム然レトモ各部ノ生理ハ他ノ部分ト
 相關係スルカ故ニ單ニ各部分ノミニ據リテハ生理ハ到底之ヲ研究スルコト
 能ハス況ヤ人身全體ノ生理ニ於テヤ經濟現象ニ於ケルモ亦然リ故ニ他ノ
 關係ヲ離レテ獨リ交易現象ノミヲ研究セントスルモ得ヘカラサルナリ例ヘ
 ハ物價ノ高低ハ何ニ因リテ定マルカト云フニ需要供給ノ關係ニ因ルコト勿
 論ナリト雖モ亦大ニ生産費ニ關係スルモノナリ故ニ生産ト云フ觀念アルニ
 非サレハ物價ノ原理ヲ了解スルコト能ハス物價ノ事ヲ知ラサレハ交易ノ事
 ハ到底之ヲ了解スルコト能ハサルナリ是レ唯一例ヲ示スニ過キスト雖モ經
 濟現象ハ總テ此ノ如ク各部相關聯スルカ故ニ單ニ一部ノ現象ノミニ付テ研
 究スルハ不能ノコトナリ「マクラウド氏ハ經濟學ハ交易ニ關スル學問ナリト
 曰フ論者ナルニ拘ハラス其ノ著書經濟學ニ於テ論スル所ヲ見ルニ交易ノ事
 ノミニ止マラス生産ノ事ノ如キモ大ニ力ヲ用ヒテ之ヲ論セリ是レ氏自ラ其
 ノ定義ノ狹隘ニ失セルヲ證スルモノニ非スヤ然レトモ氏ニシテ經濟學ハ交
 易ノ起リテヨリ以來ノ經濟現象ヲ攻究スルモノナリトノ意味ニ於テ斯ク定

義セルモノナリトセハ強チ咎ムヘキニ非サルナリ

惟フニ經濟學ハ畢竟人類社會ニ關スル學問ニシテ専ラ其財貨ニ關スル現象ヲ
 攻究スルモノナラン

註 經濟學ノ定義ヲ極ク簡單ニ言ヘハ經濟學ハ人類社會ノ財貨ニ關スル學
 問ナリリト曰フノ外ナカルヘシ

右ノ定義ハ前ノ一段ニ於テ經濟學ノ人類社會ニ關スル學問ナルコトヲ明言セ
 リ是レ所謂舊派即チ「リカード」其他英佛等ノ經濟學者カ單ニ財貨即チ富ニノ
 ミ注意ヲ厚クシ人類并ニ社會ニ重キヲ置カス甚シキニ至リテハ人類ヲ以テ財
 貨又ハ富ノ生産ニ從事スル機械的ノ動物ナリト爲スノ非理ナルヲ明カニセン
 カ爲メナリ

註 前ニ掲ケル所ノ定義ハ極メテ漠然タルハ觀アリ然レトモ經濟學ノ各部
 門ニ入ルニ隨ヒテ更ニ各部門ノ定義ヲ下スヘキカ故ニ茲ニハ抱括シテ其定
 義ヲ與ヘタルモノナリ此ノ漠然且簡單ナル定義ハ自ラ二段ニ分ル即チ其第
 一段ニ於テハ經濟學ノ人類ニ關スル學問ナルヲ明言セリ何故ニ斯ク言ヘル

ヤ蓋シ財貨ハ人類ヲ離レテ存在スルコトナキカ故ニ己ニ財貨ノ事ヲ研究スル學問ナリト言ヘハ復タ人類ニ關スルコト云フコトヲ言フニ及ハサルカ如シ然ルニ經濟學ノ現狀ニ於テハ尙ホ之ヲ揭クルノ必要アリ何トナレハ「リカード」派ノ思想ハ今日モ尙ホ世界各國ヲ通シテ其影響ヲ蒙リ居ルコト甚シキモノナレハナリ實業家ノ如キハ殊ニ然リトス我邦ニ於テモ亦此例ニ漏レス近來我邦ノ學者間ニ於テハ既ニ此派ノ思想ハ一般ニ排斥セラルレトモ實業家ノ多クハ尙ホ未タ舊思想ヲ脱セス是ヲ以テ彼等ハ放任主義ヲ主張シ生産ニ從事スル人類ヲ以テ恰モ機械ノ如ク看倣セ唯生活スル點ノミカ異レリト爲ス此ノ如キ思想カ一般ニ勢力アル時ナルカ故ニ止ムヲ得ス人類ニ重キヲ置クノ趣旨ヲ言ヒ表ハスコト必要ナリトス前ニモ述フルカ如ク財貨ナルモノハ決シテ人類ヲ離レテ存在スルモノニ非ス然ルニ今日尙ホ人類ヲ以テ恰モ牛馬ノ如ク恰モ奴隸ノ如ク視ル者多キカ如シ斯ル思想ヲ排斥シ如何ナル業務ヲ就ル者ト雖モ人類ハ即チ人類ニシテ之ヲシテ各其處ヲ得セシムルハ今日ノ急務ナリトス是ヲ以テ經濟現象ハ專ラ人類ニ重キヲ置キ財貨ハ之カ從

トシテ研究スルノ必要ヲ認メサルヲ得ス是レ予カ經濟學ノ定義ニ於テ其人類ニ關スルヲ明言セル所以ナリ他日若シ經濟現象ヲ研究スルニ當リテハ專ラ重キヲ人類ニ置カサルヘカラサルコト一般ニ認メラル、ニ至ラハ第一段ノ文字ヲ删除シテ可ナリ

蓋ニ經濟學ノ定義ヲ以テ人類社會ニ關スル學問ニシテ專ラ其財貨上ノ現象ヲ攻究スルモノナリト爲セリ然レトモ是レ頗ル漠然トシテ其意義ヲ明カニスルニ非常ノ困難ヲ感スルモノタルヲ免レス近來經濟學ハ實ニ長足ノ進歩ヲ爲シ其範圍内ニ於テ種々ノ分科ヲ生シ來リタレハ此等ノ分科ヲ總テ包含スルニ適當ナル定義ヲ下サント欲セハ勢ヒ漠然タルヲ免カレス故ニ此定義ノ真意ヲ了解セント欲セハ尙ホ進ミテ現今經濟學中ニ包含セラル、各分科ノ何タルヲ知ラサルヘカラス

註 前ニ掲ケタル經濟學ノ定義ハ頗ル漠然トシテ其意味ヲ了解スルニ困難ヲ感スヘシ然レトモ是レ寔ニ止ムヲ得サルナリ蓋シ經濟學ハ近來非常ニ其ノ範圍ヲ擴メ其中ニ種々ノ分科ヲ生スルニ至レリ此等ノ分科ヲ總テ包含ス

ルニ足レル定義ヲ下サント欲セハ勢ヒ漠然タルヲ免レス凡ソ簡單ナル言詞ノ中ニ數多ノ事柄ヲ包括セシメント欲セハ其包含スル事物ノ多キタケ夫レタケ判明ナラサルニ至ルモノナリ故ニ經濟學ノ定義ニ於テモ止ムヲ得ス漠然タルモノヲ以テ満足シ尙ホ之ヲ明瞭ナラシメント欲セハ進テ經濟學ニハ如何ナルモノノ包含サレ居ルカ即チ經濟學ノ分科ノ如何ナルモノタルヤヲ知ラサルヘカラス前ニ揭ケタル定義ハ經濟學ノ骨ト皮トノミトモ謂フヘキモノナリ故ニ此定義ヲシテ眞ニ活動スルモノタラシメントハ血ト筋肉トヲ附加セサルヘカラスカ如シ是レ今ヨリ進ミテ經濟學ノ分科ヲ論セサルヘカラサル所以ナリ

第三編 經濟學ノ分科

經濟學ノ原理原則ヲ分チテ二種トス其一ハ純粹ノ學理ノ攻究説明ニ關シ事實ヲ有ノ儘ニ記述シ之ヲ原因結果ノ理ニ照シテ誤ルコトナキヲ以テ目的トス他ノ一ハ前者ノ結果ヲ應用シ傍ラ他ノ學問ノ原理原則ヲ斟酌シ以テ社會國家ノ經濟上ニ於ケル目的ヲ達シ其繁榮ヲ謀ルノ手段方法ヲ研究シ説明スルヲ目的

ト爲ス故ニ二者ノ區別ハ猶ホ文法上ノ直說法ト命令法トノ區別ノ如シ

註 凡ソ經濟學上ノ原理原則ハ之ヲ大別シテ二種類ト爲ス第一ノ原理原則ハ利害得失ノ關係ヲ離レテ攻究スルモノニシテ一般的ノ純然タル原理原則ヲ攻究スルヲ以テ目的トス即チ事實ト事實トノ原因結果ヲ研究スルヲ以テ目的トス第二ハ前ノ原理原則ノ結果ヲ應用シテ社會國家ノ經濟上如何ナル手段方法ヲ取ルヲ可ナリト爲スカヲ研究スルモノナリ而シテ斯ク應用的ノ事ヲ研究スルニハ他ノ學問例ヘハ統計學法律學政治學倫理學等ヲ多少參酌セサルヘカラス此二者ノ區別ハ宛モ文法上ノ直說法ト命令法トノ區別ノ如シ直說法トハ事實ヲ有ノ儘ニ寫スモノナリ命令法トハ事實ニ因リテ取ルヘキ方針ヲ指示スルモノナリ

前種ノ原理原則ヲ攻究スルモノヲ稱シテ之ヲ純正經濟學ト曰フ或ハ之ヲ稱シテ純理經濟學ト曰ヒ以テ純正ノ意味ヲ真正又ハ正當ノ意味ニ解釋セサルハコトアルノ虞ヲ避ケレト欲スル者アリ是レ洵ニ一理アルコトナレトモ純正ノ熟語ハ既ニ理化ノ學ヲ始メ他ノ諸學科ニ於テ多年使用シ來リテ別ニ不都合ナク

一定ノ意味ヲ有スルニ至リ居レハ經濟學ニ於テモ亦此熟語ヲ用フルヲ以テ至當ナリト信ス

註 第一種ノ原理原則ヲ攻究スルモノヲ稱シテ之ヲ純正經濟學ト曰フ然ルニ純正ノ語ヲ使用スルトキハ真正又ハ正當ノ意味ニ解釋サレ其以外ノ經濟學ノ分科ハ正當ノモノニ非サルカ如ク解セラル、ノ虞アルヲ以テ純理經濟學ト曰フヘシト説ク者アリ是レ一理ナキニ非ス然レトモ純正ノ二字ハ他ノ學問ニ於テ既ニ多年用ヒ居リテ別ニ不都合ナシ例ヘハ純正化學應用化學ト謂フ場合ニ於ケルカ如シ故ニ今更改メテ純理化學ト云フニ及ハス經濟學ニ於テモ亦然リ故ニ強ヒテ純理ノ文字ヲ用フルニ及ハス純正經濟學ト云フヲ以テ最モ至當ナリトス

或ハ又純正經濟學ヲ稱シテ經濟學ノ原理ト曰フ者アレトモ是レ當ラス何トナレハ後種ノ原理原則ヲ攻究スル學科モ亦等シテ經濟學ノ原理ト名クヘケレハナリ後種ノ原理原則ヲ攻究スルモノハ實ニ之ヲ應用經濟學ト名ク從來英佛米等ノ學者カ經濟學ニ與ヘタル定義ノ多クハ其一分科タル純正經濟學ノ定義ト

シテハ多少不完全ナル所アルモ左マテ大ナル過失ハ之ナシ唯奈何セン之ヲ近來非常ニ進歩發達セル經濟學ノ全體ニシテ應用的ノ原理原則ヲモ包含スルモノニ適用セント欲スレハ到底其狹隘ニ失スルヲ免レサルヲ蓋シ彼等多數學者ノ眼中ニハ未タ經濟學全體ノ一分科トシテノ應用經濟學之アラサリシナリ否之アルヲ得サリシナラン

註 或ハ純正ノ文字ヲ避ケテ經濟學ノ原理ト曰フ語ヲ用ヒ之ニ對シテ第二種ノモノニ經濟學ノ應用又ハ經濟學ノ術策ナト曰フ名ヲ附スル者アリ是レ適當ナラス何トナレハ後種ノ分科ト雖モ亦經濟學ノ原理タルニハ相違ナケレハナリ又後種ノ原理原則ヲ攻究スルモノハ之ヲ應用經濟學ト名クヘキモノニシテ近來發達シテ漸ク學問ノ形態ヲ備フルニ至レルモノナリ往時ノ英國派經濟學者ノ如キハ全ク應用經濟學ヲ經濟學ノ一分科トシテ認メサリキ

蓋シ當時ニ於テハ未タ之ヲ認ムルコト能ハサリシナラン然ラハ則チ經濟學ノ現狀ニ於テ純正經濟學ノ職分トシ又ハ職分トスヘキ所ハ果シテ何レニ在リヤ是レ先ツ第一ニ攻究スヘキ必要アル問題ナラン予思フニ

純正經濟學ノ當然職分トシ又ハ職分トスヘキ所ハ人類社會ニ於ケル財貨ノ現象ニ付キ其一般普通ニ有スル性質ト其相互ニ依レル關係トヲ觀察シ之ヲ原因結果ノ道理ニ照シテ推論シ以テ財貨ニ關スル一般普通ノ原理原則ヲ發見シ又ハ概説スルニ在ラント

註 純正經濟學ノ當然職分トスル所ハ人ニ因リテ異ナレトモ總テ經濟社會ニ於ケル特別事情ニ關スルモノハ姑ク之ヲ措キ一般普通ノ現象ニ付テ研究シ又是カ原因結果ノ關係ヲ明カニシ果シテ彼ノ原因ハ此結果ヲ生スルヤ否ヤヲ研究スルモノニシテ特別ノ事情ヨリ特別ノ結果ヲ生スルヤ否ヤハ純正經濟學ノ問フ所ニ非サルナリ

他語以テ之ヲ言ヘハ純正經濟學トハ社會國家ヲ組織スル民衆カ一定ノ秩序ニ從ヒ規則正シキ方法ニ依リテ其欲望ヲ滿タサントシテ經營スル活動ノ總稱タル社會經濟又ハ國民經濟ニ關スル一般普通ノ原理原則ヲ攻究スルモノナリ

註 是レ第一編第一章ニ於テ欲望ノ事ヲ論スルニ當リ既ニ説明シタルカ故ニ復贅セサルヘシ

故ニ純正經濟學ハ物理學純正化學動物學植物學等ト敢テ異ナルコトナク或種類ノ現象ニ關スル一般普通ノ原理原則即チ所謂天則ヲ攻究スルモノナリ隨テ其目的トスル所ハ真理ニ在リ利害得失ニ非サルナリ

註 純正經濟學ノ性質ハ理化ノ學動物學等ト毫モ異ナルコトナシ唯其攻究スル目的物タル現象ノ異ナルコトアルノミ物理學ハ物體ノ性質ニ關シテ攻究シ純正化學ハ物體ノ元素ニ關シテ攻究スルコトヲ攻究ノ目的タル現象ハ各異ナルモ攻究ノ目的即チ其理ヲ發見スル上ニ於テ又ハ攻究スル方法ニ於テ必スシモ異ナルコトナシ唯演繹的ノ方法ノミニ據リテ攻究スルコトヲ得ルモノ或ハ歸納的ノ方法ノミニ據リテ攻究シ得ルモノ又ハ右二種ノ方法ニ兼テ據ラサルヘカサル等ノ差アリト雖モ其何レカノ方法ニ據ラサルヘカサルニ至リテハ則チ一ナリ經濟學研究ノ方法ニ至リテモ亦此以外ニ出テズ唯演繹的ノ研究法ノミニ據ルトキハ議論總テ抽象的ニノミ流レ英國舊派ノ覆轍ニ陷リ歸納的ノ研究法ノミニ據ルトキハ獨逸歷史學派中ノ一部ノ學者ノ如ク極端ニ事實ト沿革トノミヲ臚列スルノ弊ニ陷ルヘシ故ニ經濟學ヲ研

究スル者ハ演繹歸納ノ二論法ヲ併セ用ヒサルヘカラス是レ茲ニ話次一言スル所以ナリ

予ハ天則ヲ攻究スルモノナリト云ヘリ此所ニ謂フ天則トハ文字通りノ意味ヲ有スルモノニ非ス蓋シ經濟上ノ現象ハ人爲ノ大ニ關與スル所アルモノナリ即チ經濟現象ナルモノハ人爲ノミヲ以テハ之ヲ左右スルコト能ハスト雖モ或點マテハ人爲ニ因リテ之ヲ左右スルヲ得ルモノナリ故ニ所謂天則トハ人爲ヲ包含スル所ノ天則ナリト知ルヘシ而シテ純正經濟學研究ノ目的ハ真理ヲ發見スルニ在リテ利害得失ノ如キハ其顧ミル所ニ非サルナリ

之ニ反シテ應用經濟學ハ真理ノミヲ目的トセス真理ヲ本トシテ利害得失ノ關係ヲ攻究スルモノナリ應用經濟學ハ純正經濟學ヲ重ナル土臺トシテ人類ノ經濟上ニ於ケル目的ヲ時ノ事情ニ照合シテ最モ善ク達スヘキ手段方法ヲ吾人ニ指示スルモノナリ應用經濟學ハ實ニ一種ノ技術的學問ナリ

註 應用經濟學ハ固ヨリ真理ヲ度外視シ若クハ真理ニ逆フモノニ非スト雖モ純粹ノ真理ノミヲ攻究スルニ止マラスシテ純正經濟學ノ原理原則ヲ基礎

トシテ實際上ノ利害得失ヲ考ヘ以テ人類ノ經濟上ニ於ケル目的ヲ達スヘキ手段方法ヲ攻究スルモノナリ故ニ一種ノ技術的學問ナリト謂フヘシ

人或ハ曰ハク應用經濟學ヲ講スルハ單ニ實際家ノ爲スヘキコトナリ學者ノ爲スヘキコトニ非ス應用經濟學ハ學問ニ非スト然レトモ是レ未タ經濟學現時ノ進歩ヲ知ラサル者ノ言ナリ經濟學ハ理化ノ學ト異ナリ尙ホ頗ル幼稚ナルハ誠ニ疑フヘカラスト雖モ其今日ノ有様豈ニ其一分科タル應用經濟學ヲ以テ一種ノ學問ト看做スニ足ラザランヤ學問トハ單ニ物理學化學等ノ如キ比較的完全ナルモノノミニ限ラサルナリ

註 或ハ曰ハク應用經濟學ハ學問ニ非ス應用經濟學ハ學者ノ攻究スヘキモノニ非ス實際家ノ爲スヘキコトナリト然レトモ是レ現今ノ經濟學ハ如何ニ發達シ居ルカ如何ニ分科セラレ居ルカヲ知ラサル者ノ言ナリ經濟學ハ理化ノ學問ニ比シテ或ハ幼稚タルヲ免レザラン然レトモ四五十年來非常ニ發達シ其中ノ分科タル經濟政策學財政學ノ如キモ亦學問ナリト謂ヒ得サルモノニ非ス元來完全ナル學科ノミ獨リ學問タルニ非ス完全ナルモノノミカ學問

ナリト云フ可キモノナラハ世間殆ト學問ナルモノ之ナキニ至ルヘシ然リト雖モ應用經濟學ハ其名稱ノ表明スルカ如ク決シテ純粹ノ真理ノミヲ研究スルヲ目的トスルモノニ非ス寧ロ主トシテ利害得失ヲ攻究スルヲ目的トスルコト前ニ述フルカ如シ論者其技術的學問タルノ言ヲ聞キ之ヲ以テ寧ロ實際論ニハ非ラスヤトノ疑ヲ再ヒ起スコトアルヘシト雖モ是レ技術ト實際トノ區別ヲ知ラサルニ坐スルノミ抑モ技術ナルモノハ純粹ノ學問ト同様ニ形而上ノ事ニシテ思想界ノ範圍内ニ在ルモノナリ之ニ反シテ實際トハ形而下ノコトニシテ物質界ノ範圍内ニ在リ技術ヲ研究スルトハ實際ニ施スヘキ手段方法ヲ工夫スルノ謂ナリ實際ニ從事スルトハ現ニ事ヲ執ルノ謂ナリ故ニ技術ト實際トハ密着ノ關係アレトモ其間自ラ判然タル區別アリ技術ハ畢竟實際ト純粹ノ學理トノ間ニ介立スルモノナリ此種ノ技術ニシテ經濟ニ關スルモノヲ攻究ズルモノ是レ即チ技術的ノ學問タル應用經濟學ナリ應用經濟學豈ニ一ノ學問ナラナランヤ

註 應用經濟學ハ技術的學問ナリト云ヘハ或ハ復是レ實際論ナリ真正ノ學

第七十條ニ依リ此制限ヲモ踰越スルコトヲ得可シ日清事件ニ於ケル軍事公債ノ如キハ則チ第七十條ニ依ル財政上必要ノ處分トシテ議會閉會中募集セラレレモノナリ國債ノ募集又ハ償還ニ付キ法律ヲ以テ規定スルハ單ニ國債ノ募集又ハ償還ナル私法行為ヲ爲スコトヲ政府ニ委任セルコトヲ現ハスニ過キス唯其同時ニ規定セル契約ノ豫定條件等ニ於テ法律ニ依ルノ結果トシテ普通ノ私法ト異ナル規程ヲ設定スルコトヲ得ヘキハ復言ヲ俟タサル所ナリトス

上述スルカ如ク國債ノ募集又ハ償還ニ付テハ必シモ租稅等ノ公法上ノ行為ト異ナリテ立法事項ト爲スコトヲ要セサルモ其金額ノ巨大ニシテ且其期限モ長期ニ屬スルモノハ政府ノ財政上率テハ一國ノ經濟國民ノ負擔ニ重大ナル利害關係ヲ有スルモノナルヲ以テ議會ノ協賛ヲ經ヘキモノトセリ

即チ國債其モノ、其相力形式上ニ於テモ明カニ認知セラル、所以ニシテ一方ニハ國債ノ濫用ヲ防遏スルト共ニ一方ニハ國債其モノ、信用ヲ著シク擴充セラレタルモノト謂フ可キナリ

英國ハ前世紀ヨリ既ニ國債ニ付キ充分ノ發達ヲ示セリ「ブレンヂ公」ウキリヤム

ガ「スチユリ」ト朝ノ餘弊ヲ承ケテ財政困厄ノ機ニ際スルヤ國債ノ募集ニ付
キ之ヲ議會ニ提出セテ其承諾ヲ求メ爾後常ニ一國債ヲ起ス毎ニ權利ノ法律
ヲ以テ其手續ヲ定メ此カ償還ニ充ツヘキ租稅ヲ擔保トシテ定ムルヲ常ト爲セ
リ隨テ伸縮力ノ大ナル所得稅ヲ以テ此ニ充テ時宜ニ應シテ之ヲ増減スルコト
ヲ爲セリ其募集ノ方法ハ事務ノ取扱等ハ一々英蘭銀行ニ委任ス其詳細ハ別ニ
國債募集ノ章ニ於テ述フル所アル可シ又其償却ノ方法ニ付テハ所謂減債基金
法ヲ取ルモノニシテ其可否如何ハ又國債償還ノ章ニ讓ル可シ之ヲ要スルニ英
國ハ國債ノ歷史ニ於テハ最早タ發達セル國ニシテ所謂立憲國ニ於テ始メテ
見ルコトヲ得可キ其國債ハ其權與ヲ英國ニ發セリ而シテ實際ニ於テモ英國
ノ國債ノ歷史ハ其減債基金法ヲ取ル等ノ爲メ多少ノ非難ヲ受ケタルニ非ナル
モ歐洲列國ニ於テ最モ好景ヲ占ムルモノニシテ千八百二十年頃ハ其利子支拂
額三千二百五十萬磅ニ上リ國費總額ノ五分ノ三ヲ占メシモ千八百五十二年ニ
ハ遂ニ下リテ二千八百萬磅ト爲リ千八百八十六年ニ至リテハ二千二百萬磅ト
爲リ國費總額ノ三分ノ一ヨリ四分ノ一ノ間ニ下ルニ至リ其國債總額ノ如キモ

千八百八十年ニハ三十六億弗ニ近カリシモ千八百九十年ニハ三十三億弗餘ニ
減スルニ至レリ

佛蘭西ノ國債ニ對スル政策ノ概要ハ租稅ト國債ト一節ニ於テ前述セルカ如シ
殊ニ普佛戰爭後九十億フランクヲ募集ヲ爲セシヨリ國債ノ額ハ次第ニ増加シ
千八百八十年ニ四十二億餘弗ナリシモ千八百九十年ニハ四十四億八千萬弗ニ
上リ其利子支拂額ハ千八百二十年ニハ一億四千八百萬馬克ナリシモ千八百八
十二年ニハ七億九千萬馬克ニ増加セリ國債負擔ノ分額額ニ於テモ其總額ト等
シク列國中第一位ヲ占ム然レトモ是レ單ニ財政上ノ措置ノ誤レルノミナラス
政治上ノ原因多キヲ占ムルヲ以テ絕對ニ非議ヲ容ル可カラサルカ如シ且其國
債ノ募集ニ付テ大ニ國民的觀念ヲ交ヘ成ル可ク其一時拂込額拂込期限等ヲ斟
酌シテ總テノ階級ニ通シテ應募ノ便ヲ計リ中産以下ノ者ヲシテ貯蓄ノ觀念ヲ
養成セシメ大ニ社會問題ノ融和ヲ圖ルハ喜フ可キ趨勢ニシテ我邦ノ如キモ亦
此主義ヲ執ルモノ、如シ隨テ佛蘭西ノ國債事務ハ彼ノ模範等ノ如ク外國市場
ニ募集スルヲ例ト爲ス非國民的方法ヲ執ラス純然タル直接管理法ヲ執レリ唯

今日佛蘭西ノ國債カ既ニ其總額ニ於テ又分頭額ニ於テ第一位ヲ占メ今後尙ホ増加シテ止マサルハ慨嘆スヘキ事ナルト共ニ之ヲ伊太利、奧太利、露西亞等ニ比シ尙ホ幾層ノ好望ヲ繫ク可キ理由ノ存スルアリ一ハ其國民的募集方法ヲ實行スルコトヲ得テ、奧ノ如ク內國ニ於テ殆ト募集ノ實ヲ擧グルコトヲ得サル如キ境遇ヲ脱セルコトナリ一ハ將來私設鐵道ノ漸次國家ノ所有ニ屬スルニ由リ已ニ拂底ヲ告クル抵當ノ目的物ヲ増加シ得可キ事ト其官業收入ニ依リ國債額ヲ削減スルコトヲ得可キ事はナリ其好實例ハ次ニ掲グル普魯西ノ國債ニ於テ之ヲ知ルコトヲ得可シ

普魯西ノ國債ハ英國ト並立シテ最モ好景ヲ呈スルモノナリ今少シク其歴史ヲ詳述センニ千八百四十八年ニハ其國債總額一億五千八百五十萬タールニシテ歐洲列國ニ比シ其額僅少ナルモノナリシモ一千八百六十六年ニ至リテ二億九千萬タールニ増加セリ然レトモ此増加ノ比例ハ他國ニ比シテ小ナルノミナラス其増加額一億三千五百五十萬タール中一億二千四百三十三萬タールマテハ官設鐵道ノ敷設ト私設鐵道ノ買上ニ支辨セラレタルモノナリ蓋シ普魯

西國債ノ募集上他國ト異ナルハ國有財産ヲ以テ抵當ニ充ツルニ在リ其國有山林田地并ニ鐵道ノ收入ハ國庫ノ收入ノ三分ノ一ヲ占メ悠ニ國債ノ利子支拂元金償還ノ支途ニ充テ、餘アルニ至レリ其統計ノ概表ハ次ノ如シ

年次	人口	國債額	利子支拂額	國有鐵道ノ純收入
一八八八	西萬	二七三	百萬馬克	一〇七六
一八八七	西萬	一九九五	百萬馬克	一四一、九
一八八六	西萬	四〇七三	一六一、一	二〇一七
一八八五	西萬	二八三	一六五、六	二七八六
一八八四	西萬	二九三	四四五七	
一八八三	西萬	二九三	四四五七	
一八八二	西萬	二九三	四四五七	
一八八一	西萬	二九三	四四五七	
一八八〇	西萬	二九三	四四五七	

上邊ノ如キ好景ヲ呈スルヲ以テ獨逸ノ國債ハ三分半ノ利附ニテ平價ヲ維持セリ奧太利ノ國債ハ紙幣國債、銀貨國債、金貨國債等ノ諸種ヨリ成リ貨幣ノ價格區々ナルヨリ國債ノ募集モ貨幣ノ種類ニ由リテ自ラ其間ニ異同ヲ生シ今日ニ於テハ五分利附ニテ猶ホ平價ヲ持スルコト能ハス其國債モ千八百八十年ニハ二十億二千餘萬弗ナリシモ千八百九十年ニハ二十八億六十餘萬弗ニ増加シ千八百二十年ノ利子支拂額ハ三千百萬馬克ナリシモ千八百八十二年ニハ三億九千

五百萬馬克ニ遞増セリ

露西亞モ亦前述スルカ如ク正金國債紙幣國債アリ紙幣ノ價格ハ漸次下落シ今日ハ國債委員ノ制ヲ設ケ外國債ニ依リテ漸ク財政一時ノ整理ヲ済スモノ、如シ其國債額モ千八百八十年ニハ三十三億餘萬弗ナリシモ千八百九十年ニハ三十五億弗ニ近ツキ其利子支拂額ノ如キモ千八百二十年ニハ二千三百萬馬克ナリシモ千八百八十二年ニハ六億四千萬馬克ニ遞増スルニ至レリ其不換紙幣發行ニ基ケル財政ノ非況ハ埃佛以諸國ノ實例ト共ニ國債分類ノ章ニ於テ述フル所アル可シ

以上講述スル所ニ據リ國債ノ發達ニ對スル分類及ヒ此カ沿革變遷ノ梗概ヲ示セリ即チ國債ハ實ニ前世紀ノ末葉ニ始マリ今世紀ニ於テ著シキ發達ヲ見達ニ財政即チ國債ト云フノ盛況ヲ呈スルニ至レリ即チ千八百二十年ニ在リテハ歐洲列國ノ國債ノ利子ニ支拂フ所十一億二千五百萬馬克ニ過キサリシモ千八百六十五年ニハ正ニ之ヲ倍シ千八百八十五年ニハ四倍ニ上リ其國債總額千〇八十四億三千百萬フランクノ巨額ヲ見ルニ至レリ

「ヘンリー・ダダムス氏ノ統計ニ據レハ千八百八十七年ニハ文明國ノ人口十一億七千萬人其面積三千七百四十萬方哩其國債總額二百七十億弗ニ上レリト(但シ地方債ヲ包含セス)

年度ニ依リテ國債増加ノ統計ヲ見ルニ次ノ如シ

國債元金

億弗

年度

一五

二五

七七五

八六五

一二七五

二二二〇五

二六九七

一八八二

一八七二

一八六二

一八四八

一八二〇

一七九三

一七一四

此ノ如ク國債ノ今世紀ニ至リテ異常ノ遞増ヲ見ルニ至リシハ積極ニ消極ニ幾多ノ理由ノ存スルアリ積極的理由ノ重ナルモノヲ國家觀念ノ一變ナリトス蓋

シ封建制度壞廢シテ中央集權ノ實行ハル、ハ經濟學派ニ於テモ歷史派勃興シ
從來ノ放任主義ノ反動トシテ「リスト」ノ如キ國家主義ヲ唱道シ法律學派ニ於テ
ハ自然法學派破レテ歷史法學派勃興シ公法ノ觀念發達シ文化ノ普及ト共ニ國
家ノ政務ハ頓ニ廣キヲ加フルニ至レリ即チ國家ハ管ニ消極ニ人民ノ危害與危
ヲ除去スルニ止マラス積極ニ人民ノ幸福安寧ヲ増進ス可キモノナリトシ殊ニ
近時社會問題ノ影響トシテ國家社會主義ヲ鼓吹スル者相次キ國家ハ一方ニ
ハ恤救行政ノ範圍ヲ擴張シテ貧民救助法、強制保險、強制教育、貧民貯蓄法等下級
人民ノ保護改善ノ策ヲ畫シ一方ニハ社會一部ノ階級ヲシテ重大ナル權力ヲ獨
占セシメサシメンカ爲メ公共的事業ニシテ利害關係ノ重大ナルモノハ之ヲ
政府ノ手裡ニ收ムル等國家萬般ノ行政著シク多キヲ加フルニ至レリ殊ニ近時
各國經費ノ大部分ヲ占メ財政ノ經營上重大ナル關係ヲ有シ國債ト相聯絡シテ
朝野ノ人士ヲシテ此カ措置ニ頭顱ヲ悩マサシムルモノヲ軍事費ト爲ス蓋シ佛
蘭西革命カ自然法ヲ打破シ放任主義ヲ屏去セシメ人權主義ヲ壞廢シ歸納的歷
史的學派ノ勃興スルト共ニ中央集權ノ實舉ルヤ忽チ那破崙一世覇ヲ稱ヘテ歐

洲ヲ蹂躪シ軍旗ノ向フ處列國ヲ席卷シ中道ニシテ霸業地ニ墜ツルヤ國民的觀
念到ル處ニ勃興シ軍事上ノ設備維持ノ爲メ鉅萬ノ資ヲ投シ列國互ニ相對峙シ
テ權力ノ平均、軍器ノ改良、進歩常備兵ノ増加ト共ニ益其費額ヲ遞増スルニ至レ
リ是レ國家ノ歳出ハ年々歳々増加スルニ反シ國家ノ歳入ハ比較的之ニ隨伴セ
タル所以ナリトス而シテ其消極的ノ原因ハ經濟界ノ進歩ニ在リ蓋シ經濟ノ發
達亦等シク今世紀ニ在ルハ世人ノ周知スル所ナリ經濟上所謂資本時代
ト云ヒ商業時代ト云ヒ信用經濟時代ト稱セラル、時期ニ在リテハ資本ノ遞
増ハ此カ投下ノ途ヲ需ムルニ至リ所謂資本ノ過多ハ需要供給ノ原則ニ由リ等
シク支配セラル、ニ至レリ故ニ國債ニ依リ此等ノ資本ヲ活用シテ國家ノ事業
殊ニ生産の事業ニ投下スルハ管ニ國家自體ニ於テ得策タルノミナラス又資本
ヲ有スル者ノ却テ超望スル所タリ即チ人民カ國家ノ手ニ依リテ其實本ノ増殖
ヲ計ルコトヲ得貯蓄ノ一便法トシテ經濟上政治上好箇ノ方策タルモノナリ況
ヤ信用經濟時代ニ在リテハ經濟上ノ活動ハ益敏活繁雜ヲ極メ貨幣ハ價格ノ標
準トシテ其効果ヲ失ハサルモ交換ノ媒介トシテハ融通上信用ノ方便ニ其途ヲ

譲ルニ至リ國債證書ハ好箇ノ媒介物トシテ他ノ有價證券ト共ニ融通上缺ク可カラサル位置ヲ占ムルニ至レリ殊ニ近時無記名ノ國債證書ヲ認ムルニ至リテハ其効果亦貨幣ニ譲ルナク動産ト同一ナルモノト看做セルハ各國ノ法制ニ通シテ既ニ明文ノ認ムル所タリ

上述スルカ如ク近時國債ハ積極消極ノ原由ニ因リ國債偶素ノ時代ハ一變シテ國債常素ノ時代ト爲リ各國復國債ナキ處ヲ見サルニ至レリ而シテ此ノ如ク一方ニ國債ノ需要ノ増加ハ又同時ニ社會ノ狀況ハ之ニ應スルニ至ルコトヲ示スモノニシテ其國債ノ實行セラル可キ條件ハ其重ナルモノニ至ル

金融市場ノ發達

一國信用ノ増加

ノ二點ニ在リ

金融市場ノ發達ハ能ク資本ノ流通ヲ助ケ古代ノ如ク資本集合離散スル機關具備セス又資本ヲ有スル者モ文化幼稚ニ屬シ交通發達セス信用ノ不備ナルヨリ徒ラニ之ヲ庫中ニ藏匿セシカ如キコトナク資本ハ國內ニ縱橫運轉セラルハノ

ミナラス經濟界ハ交通ノ發達ト共ニ世界列國ヲ打シテ共同ノ潮流ニ投セシメ資金ハ國際間ヲ通シテ循環セラレ倫敦市場ニ現ハル、株式ノ數ハ其數三百種ヲ超エ其取引年額亦百億ヲ昇ルニ至レリ

一國信用ノ増加カ國債募集上重大ナル條件タルコト復言ヲ俟タス蓋シ往時信用ノ幼稚ナル時代ニ在リテハ短期國債モ對物擔保ヲ附シテ猶ホ此カ奏効ニ困難ヲ感セシハ前述スル所ノ如シ今日ニ在リテハ國家組織ノ一變文化ノ普及ハ國債其モノ、性質ヲモ一變シ此カ債務關係ニ於ケル權利義務ハ復法令ノ保障スル所ト爲リ殊ニ立憲國ニ在リテハ國債ノ募集償還ハ議會ノ承認ヲ經ルヲ例ト爲スニ至リシヲ以テ國家ノ信用益厚キヲ加フルニ至レリ今少シク之ヲ詳述スレハ一國信用ノ要素ハ

國債償還ノ實力アルコト

國債償還ノ意思アルコト

國債募集ニ關スル制度ノ完備セルコト

ニ據リテ成立シ而シテ其國債償還ノ實力ハ國民ノ富榮ト財政ノ整理トニ基因

シ殊ニ國債ノ償還及ヒ利子ノ支拂ニ必要ナル租稅制度宜シキヲ得ハ財政ノ整理ニ於テ一層ノ信用ヲ増加ス可キコト論ナキナリ其他國債ニ關スル過去ノ財政歴史即チ從來募集セシ國債ノ額ノ多少及ヒ其經過ノ如何ハ亦信用ニ至大ノ影響ヲ與ヘルモノタリ

國債償還ノ意思ハ國家自體及ヒ國民ノ良心及ヒ名譽心ノ強弱ト主トシテ公法ノ規定如何ニ因リテ消長セラル、モノニシテ一個人ノ場合ニハ此要素缺乏スルトキハ國家命令權ノ作用ニ由リ法制上此カ救済手段ヲ設ケラル、モ國家ニ對シテハ外人ガ自國政府ノ力ヲ假リテ國際法上ニ訴フル場合ノ外ハ殆ト法制上此カ救済手段トシテ強制力ノ存在ヲ認ムルコトヲ得サルモノナレハ國家信用ノ債務成立ニ必須ノ要素ナルコト復一私人ノ場合ノ比ニ非サルナリ

此他尙ホ國民的觀念モ亦隱然國債募集ノ一條件タリ例ヘハ今内外國債ノ同時ニ募集セラル、場合ニ於テ其經費勞力危險ノ負擔等ヲ對照シ結局外國債カ多少利益大ナル可シト思料セラル、場合モ國民的觀念ノ利己心ニ克チテ內國債ヲ選擇スルハ事實ニ於テ見ル處ニシテ殊ニ戰時等ニ在リテハ國民的觀念ヲ刺激

スルコト大ナルヲ以テ他ニ有利ノ事業アルモ之ヲ捨テ又在來投下セル資本ヲ回收シテ多少ノ比較的損害ヲ甘シシ國債ノ募集ニ應スルモノトス彼ノ愛國々債ノ如キハ此極例ヲ示スモノナリトス

第三章 國債ト私債

私法上ノ契約ヲ以テ成立スル債務タル點ニ於テハ國債モ私債モ共ニ相同シ其異同ノ生スルハ其債務ノ體様ニ於テ存ス而シテ其區別ノ根本ノ基礎ハ一ニ私人經濟ト公共經濟ノ別ニ在リ換言スレハ私人經濟ハ入ルヲ計リテ出ルヲ制スルニ反シ公共經濟ハ出ルヲ計リテ入ルヲ制スルニ在リ私人經濟ハ常ニ收入ノ多々益大ナランコトヲ勉メ其收入ヲ標準トシテ支出ノ程度ヲ算定シ其收入ノ一部ヲ貯蓄シテ以テ私債ヲ起スノ患ナキコトヲ期ス公共經濟ハ常ニ國家ノ經費トシテ其必要ノ有無程度ヲ定メテ之ニ應スルノ收入ヲ算定シ唯收支ノ相適合センコトヲ期スルニ在リ故ニ支出ノ收入ニ超過スルコトヲ避ク可キト共ニ收入ノ支出ニ超過スルコトモ亦等シク之ヲ避ケスハ非ス今其相異ナル點ニ付キ其重ナルモノヲ列舉スレハ左ノ如シ

第一、國債ハ其存在ヲ原則トシ私債ハ其存在ナキヲ原則トス

公共經濟ト私人經濟ノ區別ノ大要ハ上述スル所ノ如シ隨テ私人經濟ニ在リテハ常ニ支出ヲ收入ノ一部ニ止メ常ニ餘剩ヲ貯蓄シテ以テ不時ノ需要ニ應スルノ準備ヲ爲スヲ原則トス隨テ私債ハ此カ發生ヲ以テ例外ト見ル可キト共ニ公共經濟ニ在リテハ常ニ收支相適合センコトヲ計リ收入ノ支出ニ超過スルコトヲ避クルヲ以テ事實收支ノ適合ヲ期シ難キ尤ニ國債ヲ起ス可キ機會必要ハ私債ノ場合ト全ク正反對ニ出テ原則トシテ常ニ之ヲ豫期ス可キモノタリ勿論政府モ私人ノ如ク其財產ヲ賣却スルコト難キニ非サルモ官有財產拂下ノ臨時支出填補ノ手段トシテ不可ナルコトハ第一章ニ於テ述ヘタルカ如ク經濟上非議ヲ入ル可キノミナラス政治上復喜フ可キモノニ非ス又事實迅速ヲ要ス可キ巨額ノ需要ニ應スル能ハサルヲ例ト爲シ現時ニ於テモ唯財政紊亂シ信用薄弱ナル國ニ於テ已ムナリ此窮策ヲ執ルヲ見ルコトアルノミ其他特許其他ノ保護ヲ與ヘ其代償トシテ收入ヲ得ルコトアルモ其害毒ノ財產拂下ノ場合ニ比シテ却テ勝ル所アルハ復言ヲ俟タサル所ナリトス而シテ非常準備法ニ依ルノ可否ニ付

テハ亦第一章ニ於テ既ニ詳述シタル所ナルヲ以テ究極國債ハ其存在ヲ原則ト爲ス可キコト理論上ニ於テ其不可ナルヲ見サルノミナラス復事實ニ於テ各國ノ等シク證スル所ナリ

第二、國債ノ償還ハ收入ノ増加ニ依ルヲ原則ト爲シ私債ノ償還ハ支出ノ減少

ヲ以テ原則ト爲ス

私債ノ償還ニ在リテハ收入ノ増加ニ依リ或ハ財產ノ賣却等ニ依ルコト固ヨリ難シト爲サ、ルト共ニ其支出ノ減少ニ依ルコト原則トシテ認メラル、所ニシテ又比較的容易ナルモノト謂ハスンハ非ス之ニ反シテ國債ニ在リテハ官業收入ノ増加ハ固ヨリ強制的ノ性質ヲ有スルコトナク私人ノ營業ニ過キササルヲ以テ固ヨリ國債ノ償還ニ充ツルニ足ラス財產ノ賣却ノ不能不可ナルハ亦上述スル所ノ如シ而シテ經費ノ節減ハ又以テ國債償還ノ資ニ充ツルニ足ラス通常ノ歲入ハ通常ノ費途ニ充テ通常ノ費途ハ國債費ニ於テモ官有財產ノ設備維持費ニ於テモ文武行政事務費ニ於テモ既ニ政府力必要ナリト認定シタル經費ナルヲ以テ固ヨリ此ニ對シ非常ノ削減ヲ加ヘンコトハ不能ノ事理ニ屬スルモノナ

リ隨テ新國債ノ起ル毎ニ此カ填補ノ途ハ常ニ新稅ノ設定又ハ舊稅率ノ増加ニ依ルノ外ナキヲ原則トス即チ國債ノ償還ハ常ニ強制的收入ノ増加ニ依ルモノニシテ私債ノ場合ノ如ク容易ナルモノニ非サルナリ

第三、違約ニ對スル債權者ノ救済手段ハ私債ノ場合ハ充分ノ保障アルモ國債ノ場合ニハ充分ノ保障ヲ受クルコトナシ

私債ノ場合ニ在リテハ其條件期限利率等ノ變更又ハ償還ノ有無ニ付キ債權者ノ合意ヲ經ス不法ニ違約スルトキハ法令ハ債權者ノ權利ヲ保障シテ司法ニ行政ニ債務者ノ破産ヲ限度トシテ此カ救済手段ノ完備ヲ期スルモノタリ之ニ反シテ國債ノ場合ニハ第一期第二期ノ時代ニ於テ固ヨリ實力關係ニ由リ不法ニ違約シテ之ヲ強行スルモ又之ニ對シテ救済ヲ求ムルニ由ナク近時立憲制度ノ下ニ於テモ議會ノ協賛ヲ經ルトキハ債權者ノ合意ヲ俟タスシテ此カ變更ヲ試ムルコトアリ此場合ニハ唯政治上道德上非難ノ餘地ヲ存スルニ止マリ法律上又此カ救済ノ手段ヲ缺クモノタリ外國債等ノ場合ニ於テモ外交問題ニ關聯シテ事實此カ變更ヲ抑制ストアルモ固ヨリ法律上ノ問題ニ非ス近時列國皆

自己ノ信用ノ鞏固ヲ計リ濫リニ此等ノ窮策ヲ執ルコトナキモ時ニ其實例ヲ見出スコトナキニ非ス其詳細ハ別ニ國債償還ノ章ニ於テ再述スル所アル可シ

第四、國債ノ成立ニハ募集ノ方法ニ依ルヲ原則トシ私債ノ成立ニハ借入ノ方法ニ依ルヲ原則トス

國債ハ私債ニ比シテ其額固ヨリ巨大ナルヲ以テ之ヲ特定セル私人ヨリ借入ルコトハ經濟界ニ及ホス影響大ナルノミナラス幾多ノ弊害其借入ニ附帶シテ發生スルコトハ固ヨリ言フ俟タサル所ナリトス隨テ信用ノ發達セル現時ニ在リテハ政治上經濟上ノ理由ヨリ政府ハ單ニ一定ノ條件ヲ示シテ一般ヨリ募集スルノ制ヲ執ルコトヲ原則トシ社會問題ニ關聯シテ其募集方法ニ付キ成ル可ク應募者ノ種別範圍ヲ擴充セントスルノ趨勢アルコトハ前述セル所ノ如シ或學者カ國債私債ノ區別ノ一トシテ債權者ノ數ノ多少ヲ舉ゲ又ハ證書面ノ金額ト實際ノ借入高ノ相異ナルコトヲ舉タルモ亦此ニ伴フ結果ノ一端ヲ表彰セシモノニシテ却テ狭キニ失セルモノナリ募集ノ場合ニ於テハ其募集條件ノ輕重ト金融市場ノ繁閑ニ由リ需要供給ノ原則ニ支配セラレテ拂込高ノ額面高ヲ上

下スルハ固ヨリ言フ俟タス而シテ此募集方法ハ近時私債中法人ニ屬スルモノニ在リテハ又屢行ハル、所ニシテ通常社債ト稱セラル、モノ、外普通ノ借入ニ於テモ額面高ト借入高ノ相異ナルコト稀ナリトモス利子制限法ノ拘束ヲ通レンカ爲メニスル所謂高利貸ノ輩ノ如キハ姑ク之ヲ間ハストスルモ彼ノ英國ノ「ボンド」ノ制ノ如キハ額面高ト借入高ト相異ナル可キコトヲ原則ト爲スモノナレハナリ

第五、國債ハ償還期間長ク利子低ク擔保無キヲ原則ト爲スモ私債ハ償還期間短ク利子高ク擔保ヲ要スルヲ原則トス
國家ノ私人ニ比シテ信用ノ大ナルハ言フ俟タス永久ノ生存ヲ爲ス可キ國家ニ在リテハ其債務ノ永續ハ却テ債權者ノ希望スル所ニシテ近時信用ノ發達セル政府ニ在リテハ漸次無期ノ國債ヲ認ムルニ至レリ利子ニ於テモ信用ノ大ナル國債カ私債ニ比シテ低キコトハ又自明ノ理ニ屬シ時ニ無利子ノ場合亦少シト爲サス強制國債ノ一種ト見ルヘキ不換紙幣ノ如キ是ナリ但不換紙幣ハ信用其モノ、厚薄ノミニ依リテ消長スルモノニ非サルハ論ナシ終リニ擔保ノ如キ私

債ノ場合ニ在リテモ對人信用ノ外ニ居常ノ情實ヨリ無擔保ノ場合少シト爲サ、レトモ通常特種ノ關係ナキ間ニ在リテハ擔保ヲ以テ成立ノ一要素ト見ルコト原則タリ

國債ト曰ヒ公債ト曰フ固ヨリ其間ニ畫一セル限界ノ存スルニハ非ス唯此ニハ公債ヲ以テ政府其他ノ公共團體ノ債務ヲ總稱スルモノトス即チ國債及ヒ地方債ヲ併稱シテ公債トス本論ノ國債公債ノ用語ヲ以テ代用スルモ亦別ニ不可アルコトヲ見ス但地方債ノ如何ナルモノヤニ付テハ國債償還ノ章ニ次キテ一言スル所アル可シ

第四章 國債之分類

國債ハ其標準ノ異ナルニ從ヒ之ヲ各種ノ方面ヨリ分類スルコトヲ得ヘシ今其重ナルモノヲ擧クレハ次ノ如シ

第一、國債募集ノ原因ヲ標準ト爲ス

甲、非常國債

乙、平常國債

財政學

- 一、財政上ノ平常國債
- 二、經濟上ノ平常國債
- 三、行政上ノ平常國債
- 第二、債權者ノ國籍ヲ標準ト爲ス
 - 甲、外國債
 - 乙、內國債
- 第三、國債募集ノ性質ヲ標準ト爲ス
 - 甲、強制國債
 - 一、直接強制國債
 - イ、借入直接強制國債
 - ロ、支拂直接強制國債
 - 二、間接強制國債
 - 乙、任意國債
 - 一、愛國國債

- 二、契約國債
- 三、通常國債
- 第四、國債ノ期間及ヒ性質ヲ標準ト爲ス
 - 甲、流動國債
 - 一、行政上ノ流動國債
 - 二、財政上ノ流動國債
 - イ、短期借入
 - ロ、大藏省證券
 - ハ、紙幣
 - 乙、確定國債
 - 一、有期確定國債
 - イ、割増國債
 - ロ、年金
 - ハ、定期國債

二、無期確定國債

此他尙ホ經濟上ノ効果ヨリ觀察シテ生産の國債ト不生産の國債ニ分類シ擔保ヲ附スルト否トニ據リテ擔保附國債ト無擔保國債ニ分類シ利子ヲ附スルト否トニ據リテ利子附國債ト無利子國債ニ分類シ花札ヲ附スルト否トニ據リテ花札附國債ト無花札國債ニ分類シ課税ノ目的物ト爲スト否トニ據リ負税國債ト無税國債ニ分類シ記名ノ有無ニ據リテ記名國債ト無記名國債ニ分類スル等幾多ノ區分ヲ爲シ得サルニ非サレトモ此等ノ分類ハ國債ノ區分トシテハ比較上之ヲ論究スヘキ價值少ク且別ニ他ノ章目ノ下ニ於テ叙述スヘキ機アルヲ以テ茲ニハ前掲四種ノ分類ヲ説明シ此カ利害得失ニ付キ論究スル所アル可シ

第一節 非常國債ト平常國債

非常國債トハ戰亂其他天災地變等意外ノ事變ニ因リ非常ノ費途ヲ蔽フカ爲メ起債セラル、モノニシテ我邦ニ在リテハ明治十年ノ役ニ第十五國立銀行ヨリ借入タル征討費一千五百萬圓明治二十七八年ノ役ニ於ケル軍事公債明治二十七年八月勅令百四十四號軍事公債條例ノ如キ是ナリ蓋シ非常國債ハ平常國債

ニ比シテ其額巨大ニ上ルヲ常ト爲シ且急速ノ供給ヲ要スルモノナリ而シテ一面ニハ其需要ハ國家ノ生存問題ニ關聯シテ絶對的ノ必要ヲ見ルヲ例ト爲スヲ以テ國債ノ必要ニシテ又何レノ國ニ通スルモ國債ナキヲ見サルハ畢竟非常ノ事變ノ發生ニ因ルコト此カ避ク可カラサル原由タルコト明カナリトス
平常國債ハ再分シテ財政上ノ公債ト經濟上ノ公債及ヒ行政上ノ公債ノ三種ト爲ス

財政上ノ平常國債ニハ財政ノ不足ヲ補フカ爲メニ起債セラル、モノアリ我邦ニ在リテハ海軍々備ノ費途ニ充ツル爲メ募集セラレシ海軍公債明治十九年六月勅令第四十七號海軍公債證書條例ノ如シ又財政整理ノ爲メ募集セラル、モノアリ弘化元年以後明治四年ニ至ル舊諸藩縣ノ國債ノ引受トシテ發行セシ新舊公債明治八年五月布告第九十五號新舊公債證書發行條例從來永世一代又ハ年限等ヲ以テ給與セシ家祿賞典祿ヲ改メテ祿ノ種類並ニ金祿元高ニ由リ年分ヲ定メ一時ニ下渡ス爲メ起債セシ金祿公債明治九年八月布告第百八號金祿公債證書條例政府發行ノ紙幣ヲ交換支消スル爲メ發行シタル金札引換公債明

治十三年十二月布告第四十七號金札引換公債條例從前發行ノ六分以上利附ノ
 內國債ヲ償還整理スル爲メ起債セシ整理公債明治十九年十月勅令第六十六號
 整理公債條例其他沖繩縣諸債社寺遞減祿舊神官配當祿等ノ如キ是ナリ此種ニ
 屬スル國債ハ國債ノ管理ト密接ノ關係ヲ有スルヲ以テ別ニ詳述スル所アル可
 シ

經濟上ノ平常國債トハ事業ヲ起ス爲メ募集セラル、モノナリ我邦ニ在リテハ
 全國中公益ノ事業ヲ起シ物産繁殖ノ道ヲ開キ内外ノ商賣ヲ盛ニスル爲メ募集
 ナレシ起業公債明治十一年五月大藏省布達甲第十三號起業公債證書發行條例
 上野國高崎ヨリ美濃國大垣マテ中仙道ニ沿ヒ延ヒラ伊勢國四日市ニ至ルマテ
 鐵道ヲ布設シ及ヒ其事業ヲ經營スル爲メ起債セラレシ中仙道鐵道公債明治十
 六年十二月布告第四十七號中仙道鐵道公債證書條例相模國戸塚橫須賀間近江
 國大津長濱間ノ鐵道布設資金ヲ補充スル爲メ募集セラレシ鐵道費補充公債明
 治二十二年一月勅令第六號鐵道費補充公債條例其他秩祿公債新舊外國債ノ如
 キ是ナリ

發生ニ當リテ保險者ハ契約ノ要素タル保險料ニ關スル合意ヲ缺キタルノ口
 實ヲ以テ仕拂ヲ拒ミタリシカ裁判所ハ此場合ニ保險料カ當事者間ニ默定セ
 ラレタリト看做シテ契約ヲ有効ナラシメタルコト米國ノ判例ニ見エタリ
 之ト類似ニシテ代理店カ保險申込ヲ承諾シ而シテ其保險料ニ就テハ本社ノ
 許可ヲ受クヘキ場合ニ未タ危險ノ記載カ本社ニ到着セズ隨テ本社ニ於テ保
 險料ヲ定メサル間ニ事故發生シテ損害ノ起リタル場合ニ代理店カ定メテ受
 取リタル當該保險料カ世間並至當ナリト認メラル、トキニハ會社ハ保險料
 ノ不確定ヲ口實トシテ契約無効ヲ主張スルヲ得ス何トナレハ該危險ノ記載
 カ本社ヘ到着セル場合ニハ本社ハ必ス其至當ナルヲ嘉シテ爾ク定ムヘカリ
 シト信スルコトヲ得レハナリ

(二) 契約繼續ノ場合 保險契約ノ期間満了シ而シテ契約者ハ繼續ノ申込ヲ爲シ
 保險者ハ之ヲ承諾シタルモ未タ保險料額ヲ記載シタル證券ヲ發スル前ニ事
 故發生シタルカ如キ場合ニハ保險料額ハ畧セラレタルモノトシテ契約有効
 ナリ

(三) 保険料額ヲ後ニ定ムルト約シタル場合 例ヘハ貨物ヲ未タ船ニ積込マサル前ニ契約ヲ結ヒ保険料額及ヒ保険金額ハ積荷ヲ了ヘ出帆ノ時日ノ確定シタルトキニ定メント約スル場合ノ如キハ未タ保険料確定セサルモ該契約ハ有効ニシテ随テ保険契約者後ニ定メラレタル保険料ヲ支拂フノ義務アリトス
 保険料ノ拂込ニ付テ一言諸君ノ注意ヲ乞フヘキコトアリ他ナシ保険料ハ保險契約者カ保險者又ハ其代理者ノ營業所ニ就テ支拂フノ義務アルコトナリ是レ頗ル略易キ道理ナレトモ我邦ニ於テハ概シテ保險者カ保險契約者ニ就テ之ヲ請求スルヲ以テ習慣ト爲スカ故ニ時ニ爭論ノ發生スルヲ免レス例ヘハ正當拂込期日ニ保險者ノ代理者カ契約者ニ就テ保險料ノ請求ヲ爲サス空シク時日ヲ經過スル間ニ事故發生シタリトセヨ保險者ハ保險料ノ不拂ヲ以テ契約無効ヲ宣言シ契約者ハ從來ノ慣例ニ從ヒ保險者ノ請求ヲ待テルノミニシテ毫モ不拂ノ意思無シト主張スヘシ然レトモ此習慣ハ頗ル不完全ナル習慣ニシテ且之ヲ以テ商慣習ト看做サンニハ其基礎薄弱ナルヲ如何セン何トナレハ保險者ヲシテ必ス期日ニ於テ請求セシムルコトハ數多ノ契約ヲ締結セル者ニ對シテ行ハ

ルヘカラサルト同時ニ期日ニハ契約者カ必ス自宅ニ在テ必ス請求ニ應ジテ保險料ヲ支拂フモノト謂フヘカラス或ハ他出シテ容易ニ拿フヘカラサル場合アルカ故ナリ故ニ保險者カ集金セシムルノ習慣ハ眞ニ營業ノ利便上保險料ノ容易ク拂込マルハコトヲ希圖スル爲メニ行フ所ノモノニ過キヌシテ權利義務ノ上ニ於テ之ニ羈束セラルハコト無シト知ルヘシ故ニ契約者ハ此習慣ニ拘ハラス拂込期日ニハ必ス保險料ヲ拂込マサルヘカラス然ラサレハ契約無効ノ不幸ヲ見サルヘカラサルヘシ
 拂込期日カ休日又ハ祭日ニ當リタルトキハ當然一日ノ猶豫アルモノトセサルヘカラス即チ大祭日及ヒ日曜日ハ一般ニ取引ヲ休止スルノ日ナレハ店舗ヲ閉チタル保險者カ保險契約者ニ對シテ其日ニ保險料ノ拂込ヲ強制スルヲ得サルナリ故ニ拂込期日若クハ猶豫期間満了ノ日カ休日ニ當リテ其日ニ事故カ發生セルトキト雖モ契約ハ翌日ノ拂込ヲ以テ契約ヲ有効ナラシムルヲ得ルモノトス
 第三款 危險
 保險契約ノ目的ハ危險ト相關フニ在リ故ニ危險ノ存在セサル所ニ保險契約ノ

成立セサルハ固ヨリ之カ包容及ヒ變化カ契約ノ効力ニ大ナル影響ヲ與フルモ
ノナルカ故ニ少シク茲ニ之ヲ繰返スノ必要ヲ見ルナリ
危險トハ不測ナル事故ノ發生スヘキ程度ヲ指シタルモノニシテ畢竟事故ト同
一ナリ唯、一ハ客觀的ニシテ他ハ主觀的ナルノ差違アルノミ
事故ハ經濟的損害ヲ惹起スモノタルヘキコト及ヒ不測ニ發生スルモノタルヘキ
コト並ニ不測ニハ絶對的ト相對的ト差違アルコトハ曩ニ保險契約ノ定義ニ於
テ之ヲ述ヘタルカ故ニ今之ヲ喋々セスト雖モ事故ハ其將來ニ起ルヘキモノタ
ルヲ要スルコトハ一言ヲ費スノ價值アリ保險契約締結以前ニ已ニ目的ノ事故
カ發生シタル場合若クハ締結後ニ於テ決シテ事故ノ發生スヘカラサル場合ノ
如キハ契約ノ目的タル填補行為ノ必要ナキ場合ナルカ故ニ固ヨリ契約ヲ成立
セシムルノ必要ナシ然ルニ保險契約ハ契約者ニ安堵ノ利益ヲ供スルノ一ノ目
的ト結果ヲ有スルヨリ絶對的不測ノ事故ナラサルモ當事者ニノミ不測ナリセ
ハ之カ成立ヲ認ムルノ利便ナルコト、實際ニ於テ契約ノ瞬間ニ既ニ事故カ發
生セリヤ將タ未タナルヤ不分明ナル場合アルカ故ニ苟モ當事者カ知ラサル限

リハ契約ヲ有効ナラシムルノ主義ヲ採リ我商法ハ第三百九十七條ニ左ノ規定
ヲ設ケタリ

保險契約ノ當時當事者ノ一方又ハ被保險者カ事故ノ生セサルヘキコト又ハ
既ニ生シタルコトヲ知レルトキハ其契約ヲ無効トス
〔知レルトキハ無効トス〕トノ裏面ニハ知ラサル場合ハ有効ナリト認ムルノ意ア
ルヤ明カニシテ例ヘハ海上保險ノ如キニ於テ茫々タル海洋ヲ航行スル船舶ノ
已ニ風波ノ難ニ遭ヒテ敷没シタルヤ將タ安全ニ浮ヒツ、アルヤ誰人ニモ不明
ナル場合ニ於テ之カ契約ヲ締結スルノ必要アルコトヲ想像シタルナルヘシ普
通保險ニ於テハ此ノ如キ例甚タ多カラスト雖モ再保險ニ於テ常見ル所ノモ
ノナリ此場合ニ於テハ後日證據アリテ契約締結ノ際ニハ已ニ當該船舶沈没セ
ルコトノ證明セラル、ト雖モ當事者ハ元來之ヲ知ラサルカ故ニ該契約ハ有効
ニシテ保險者ハ一旦拂渡シタル保險金ヲ取戻スコトヲ得サルナリ
前陳ノ主義ハ嚴格ナル保險ノ道理ヨリスレハ非難スヘキモノタルハ勿論ニシ
テ當ニ既往ノ損害ヲ填補スルノ不理ヲ來スノミナラス之ヲ利用シテ賭博的嗜

好ヲ満足セシメントスル者ノ發生ヲ促スニ至ルノ弊アリ而モ今日保險事業ノ發達シタル文明諸國ニ於テ之ヲ認ムルハ便宜上ト歴史的结果ニ外ナラス就中此場合ノ存スルハ曩ニ述ヘタルカ如ク海上保險ニ最多クシテ英國ニ於テハ此特約ヲ爲サンカ爲メニ「ロスト、オア、ナット、ロスト」事故ノ發生セルト否トニ拘ハラスノ意ナル文句ヲ契約ノ要項中ニ挿入スルコトヲセリ其當初ノ目的ハ保險契約ヲ締結セラレタル船舶カ行衛不明トナリテ長ク發見サレナリシ場合ニ此特約ヲ作リタリト稱セラレルモ一千五百二十三年「フロレンス」證券ヲ見ルニ此條項未ダ挿入セラレス而シテ一千六百十三年ノ英國ノ證券ニ此條項ノ掲ケラレタルヲ以テ察スルニ前述ノ如キ投機ノ思想ヨリセルニ非スシテ外國ノ漢港ヨリ歸航若クハ回航スル所ノ所有船舶カ途中ニ危險ニ遭遇スル場合ニ對シ商人ヲ保護スルノ目的ヲ以テ發明セラレタリトスル方眞ニ近キカ如シ是ヨリシテ漸次其利用ヲ擴張シ遂ニ我商法ニ於ケルカ如ク一個ノ主義ト進歩シタルナリ

危險ハ又天然ニ發生スルモノタルト人爲ニ出ツルモノタルヲ問ハス例ヘハ生

命保險ニ於ケル死亡ハ疾病ニ起因スルト人ニ殺害セラレタルトニ拘ハラス火災保險ニ於ケル火災ハ天火ナルト放火ナルトヲ論セス又竊害蟲害ノ如キ天然ノ災禍ノ外徵兵ノ如キ國家ノ行動ニ基ク所ノ危險ニ對シテモ保險ノ契約ヲ締結シ得ヘキカ如シ

絶對的關係的天爲人爲ノ有ラユル宇宙間ノ危險ヲ考察スレハ千差萬別ニシテ保險セラルヘキ危險實ニ無數ト謂ハサルヘカラス洪水暴風驟雨旱魃海嘯難船火山ノ破裂、劍難、盜難、疾病、負傷、老衰、死亡等ハ勿論霜害、雪崩、雹害、虫害、濕關ノ破裂、車馬ノ衝突、雇人ノ拐帶、債務者ノ逃亡、破産、甚シキハ政黨大臣ノ辭職、零落等ニ至ルマテ悉ク之ヲ不測ニシテ經濟の損害ヲ惹起ス所ノ危險ト謂フヘキカ故ニ保險契約ノ目的タルヲ得ルモノト謂ハサルヘカラス故ニ法律ヲ以テ之ヲ列舉セシコトハ至難且無用ナル業ニシテ舊商法ニハ「保險スルコトヲ得ヘキ危險ハ主トシテ火災地震暴風雨其他ノ天災陸海運送ノ危險死亡及ヒ身體上ノ災害ナリ然レトモ其他ノ危險ニ對スル保險ハ之カ爲メニ妨ケラルヘコト無シ」ト規定シ概活法ニ加フルニ説明的列舉ヲ以テセルモ新商法ハ全然此醜キ列舉の規定ヲ

去リ損害保険ノ總則第三百八十四條ニ於テ「偶然ナル一定ノ事故ナル一句ヲ以テ危險ノ説明ト爲セリ是レ寧ロ予ノ贊成スル所ナレトモ此技倆アル起草者カ第四百二十七條ノ蛇足ヲ敢テセラレタルハ予ノ遺憾トスル所ナリ宇宙間ニ發生スヘキ偶然ナル事故實ニ枚擧ニ遑アラサルト同時ニ保險ニ付セラルヘキ危險無數ナルノ理ナリ然レトモ實際ハ理論ト異ナリ保險事業ノ旺盛ナル外國ニ於テモ保險契約ヲ以テ覆ハル、所ノ危險ノ種類甚タ多カラス生命火災海上ノ三危險ヲ最重要ナルモノトシ其他怪我、運送、電害、玻璃、徵兵、盜難、疾病等ノ危險ヲ保險スルコトアルノ外又多ク見サルナリ本邦ニ於テハ僅ニ生命、火災海上運送、徵兵、疾病ノ保險アルノミ其然ル所以ハ危險ノ性質上ノ實行ヲ難ンスルニ因ルモノナリ請フ少シク之ヲ陳ヘシメヨ

一、至大ナル危險ハ保險シ難シ

玆ニ所謂至大ナル危險トハ該危險カ一タヒ發生スルニ當リテヤ吾人カ非常ナル損害ヲ被ルヘキ性質ノ危險ヲ謂フナリ例ヘハ洪水、地震ノ如シ洪水、地震ノ損害タルヤ一タヒ起ルトキハ大ニシテ數國郡、小ニスルモ尙ホ數村ニ亘リ其

損額無慮數百萬圓ニ上ルコトヲ得此ノ如キ巨大ナル損害ハ實際之ヲ填補スルノ力アル者ヲ得ルニ難シ故ニ舊商法ニ掲ケタル地震、暴風雨其他ノ天災等ノ語ハ頗ル實際ニ通セサルノ陋ヲ遺スノミ

二、過小ナル危險ハ保險シ難シ

至テ大ナル損害ヲ惹起ス所ノ危險カ保險スルニ難キト同時ニ微小ナル損害ヲ伴フ所ノ危險モ亦保險ヲ成立セシメス是レ保險契約ニ依リテ他人ニ填補セシメサルモ自身ニ之ニ堪フルコトヲ得ルカ故ナリ

三、世人カ一般ニ感スル所ノ危險ニ非レハ保險シ難シ

死亡ノ危險ノ如キハ如何ナル人モ皆感スル所ノモノナリト雖モ火災ノ如キハ人家稀少ナル田舎ニハ殆ト發生セサルカ故ニ火災保險ノ必要ナキカ如ク狹隘ナル一部ノ人ヲ脅カス所ノ危險ハ保險シ難キモノトス

四、屢發生セサル危險ハ保險シ難シ

社會ニ於テ昨日モ起リ今日モ起リ彼方ニモ生シ此方ニモ生スルカ如キ危險ニ對シテハ世人常ニ苦痛ヲ被リテ之カ救済ノ策ヲ講スレトモ十年ニ一タヒ

起リ二十年ニ一タヒ發生スルト云フカ如キ危險ハ保險ニ付セラル、コトナシ

五 統計シ難キ危險ハ保險シ難シ

保險契約ハ保險者カ其責任ニ對スル報酬タル保險料ヲ正當ニ收メ得ルノ望アルニ因リテ成立スルモノニシテ其保險料算定ノ基礎タル危險ノ統計補ラサレハ保險契約ヲ締結スル者ナキナリ多クノ種類ノ債權保險カ實際成立シ難キハ全ク此理由ニ基ケリ

此五個ノ原則ハ實ニ保險契約ノ成立ヲ難シスル所ノ事實上ノ理由タルノミナラス一旦成立セタル契約ニ對シテモ亦其勢力ヲ及ホスコトアルヲ記憶セサルヘカラス例ヘハ商法第三百九十五條戰爭其他ノ變亂ニ因リテ生シタル損害ハ特約アルニ非サレハ保險者之ヲ填補スル責任ニ任セストアリ戰爭其他ノ變亂例ヘハ革命暴動一揆ノ如キ危險ハ生命財産ヲ脅カス所ノ危險ニシテ生命火災其他ノ保險ニ於テ填補ノ原因タルヘキコト無論ナルカ如シト雖モ此種ノ危險ハ通常至大ニシテ兵燹ノ災ハ屬滿都全國ヲ島有ニ歸セシメ或ハ數萬ノ生靈ヲ屠ル

ニ至リ而シテ之カ發生ハ文明ノ今日偶然ノ又偶然ニシテ殆ト吾人ノ想像セサル所タリ隨テ之カ損害ノ統計ノ據ルヘキモノヲ得ルニ至難ナリ故ニ國家ハ之ヲ保險契約ニ例外ナル危險ト看做シテ之ニ起因スル損害ヲ保險者ニ免除シ以テ保險事業ノ基礎ヲ危カラサシムルナリ但保險者カ特ニ之カ責任ニ任スヘキコトヲ約シタル場合ハ此限ニ在ラスト我商法ニ規定セラレタレト予ハ保險政策ノ觀察點ヨリ特約ヲ許サ、ルヲ至當ナリト思惟スルナリ何トナレハ荷モ保險者カ特約スル上ハ戰爭變亂ノ大危險ニ因リテ保險契約ノ大部分ニ對シテ賠償ヲ爲サ、ルヘカラスシテ破産ノ悲境ニ陷リ殘餘ノ保險契約者ニ對シテモ多ク且長ク損害ヲ被ラシメサルヘカラサルノ患アルヲ以テナリ

危險ハ又他動のナラサルヘカラス即チ保險契約ノ目的物ノ性質ヨリ來リ又ハ其缺點ヨリ生スル損害若クハ其物ノ當然ノ使用ニ起因スル損害ハ元來不測偶然ノ事故ニ非サルカ故ニ保險ヲ以テ覆フヘカラサルモノナリ例ヘハ燐素カ空氣ニ觸レテ自然ニ燃失スルコト麝香カ自然ニ減量スルコトノ如キハ其性質ノ當然ノ結果ニシテ火藥カ納器ノ瑕疵ニ因リ自然ニ爆發スルカ如キハ其缺點ヨ

リ生シタルナリ而シテ器械カ磨擦ニ因リテ使用ニ堪ヘサルニ至ルハ是レ亦當然ノ結果ニシテ他動の危険ト謂フヲ得サルカ故ニ保險契約ノ要素タルヲ得サルナリ之ト同時ニ被保險利益ノ所有者タル被保險者自身又ハ契約ノ當事者タル保險契約者若クハ保險金額ヲ受取ルヘキ者カ故意又ハ重大ナル過失ニ因リ被保險利益ヲ減失セシメタルトキハ危險カ發生セタルニ非スシテ保險ノ目的カ消滅シタルモノトシテ契約ハ當然効力ヲ失ハサルヘカラス商法第三百九十六條ニ保險ノ目的ノ性質若クハ瑕疵其自然ノ消耗又ハ保險契約若クハ被保險者ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害ハ保險者之ヲ填補スル責ニ任セストアリ又同第四百三十一條ニ左ノ場合ニ於テハ保險者ハ保險金額ヲ支拂フ責ニ任セス(一)被保險者カ自殺決闘其他ノ犯罪又ハ死刑ノ執行ニ因リテ死亡シタルトキ(二)保險金額ヲ受取ルヘキモノカ故意ニテ被保險者ヲ死ニ致シタルトキト規定シタルハ即チ是ナリ但 第三百九十六條中ノ前ノ場合ト後ノ場合ハ自ラ法理ヲ異ニセラルヘカラサルヲ同一ノ結果ニ歸セシメラレタルハ予ノ感服セサル所ナリ即チ目的ノ性質瑕疵若クハ自然ノ消耗ハ契約ノ初ヨ

リ存在スヘク知了セラルヘキモノニシテ其契約ハ初ヨリ當然無効タリ故ニ保險者ハ保險金支拂ノ責任無キト同時ニ保險料ヲ要求スルヲ得ス而シテ被保險者ノ意思ニ出テタル損害ハ其時ニ於テ契約ヲ無効ナラシムルモノナルカ故ニ保險者ハ保險金支拂ノ義務無キノミナラス既往ニ對シテハ保險料ヲ要求スルコトヲ得ルナリ我商法ニ於テ初ヨリ保險契約ノ要素ヲ缺ケル場合ハ該契約ヲ無効トスト規定シ他ノ場合ニハ保險金支拂ノ責ニ任セスト規定セルヲ普通トスルニモ拘ハラズ本條ニ於テ二個ノ異ナリタル場合ヲ同様ニ規定シタルハ何故ンヤ世人ヲシテ誤解ヲ來サシムルノ虞アリト謂フヘシ

保險者カ之ニ對シテ賠償スヘキ危險ノ種類ハ保險契約ノ當時ニ於テ確定セラレテ双方ノ合意ヲ得サルヘカラサルコト勿論ナリ然レトモ契約ヲ締結スルニ際シテ數多キ危險ノ種類ヲ列舉シテ之ニ就テ合意ヲ爲スコトハ頗ニ堪ヘサルノミナラス屢之ヲ漏ラスノ虞アルヲ以テ法律上若クハ習慣上自ラ一定ノ危險ヲ目的トスルモノト看做サルヲ通例トス例ヘハ我商法第四百十九條ニ「火災ニ因リテ生シタル損害ハ其火災ノ原因如何ヲ問ハス保險者之ヲ填補スル責ニ

任ス」トアリ以テ荷モ火災保險契約ヲ締結スルトキハ火災破裂ノ危險ニ因スルモ雷火地震ノ災ニ基クモ類焼ニ罹ルモ放火ニ遭フモ總テ保險者カ之ヲ填補スヘキモノト推定スルカ如シ故ニ當事者カ或種ノ危險ノ除外ヲ望ムトキハ特約ヲ以テ例ヘハ瀛關ノ破裂ニ起因スル火災ハ其責ニ任セス雷火地震ニ原因スル火災ノ損害ハ填補セスト云フカ如キ契約ヲ結ハサルヘカラサルナリ

又運送保險ニ付テハ商法第四百二十三條ニ保險者ハ特約ナキトキハ運送人カ運送品ヲ受取リタル時ヨリ之ヲ荷受人ニ引渡ストキマテニ生スルコトアルヘキ損害ヲ填補スル責ニ任ストアリ其損害ハ盜難ニ起因スルト火災ニ起因スルト船ノ沈没ニ起因スルト瀛車ノ衝突ニ起因スルトヲ問ハス運送中百般ノ危險ヲ約シタルモノト推定セラルハナリ

又海上保險ニ付テハ第六百五十四條ニ保險者ハ本章又ハ保險契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外保險期間中保險ノ目的ニ付キ航海ニ關スル事故ニ因リテ生シタル一切ノ損害ヲ填補スル責ニ任ストアリ又同第六百五十五條ニ保險者ハ被保險者カ支拂フヘキ共同海損ノ分擔額ヲ填補スル責ニ任スト規定シ以テ危險

ノ範圍ヲ一定シタルナリ

之ニ就テ「レウイス」氏ハ保險契約ヲ二種ニ區別シ一ハ一種類ノ危險ノミヲ填補スルモノ他ハ數種類ノ危險ヲ填補スルモノトセリ前者ニ屬スヘキモノハ火災保險、電害保險、霜害保險、獸疫保險、債券失價保險等ニシテ其掲ケラレタル種類ノ危險ノミヲ保證スルモノトス而シテ後者ニ屬スヘキモノハ硝子保險、馬匹保險、運輸我保險、運送保險、海上保險等ニシテ保險ノ目的ヲ脅カス所ノ總テノ危險ニ對シテ責ヲ負フ所ノモノナリ

危險ノ種類ハ法律又ハ習慣ニ依リテ概テ前記ノ如ク定メラルト雖モ更ニ一層千變萬化スル所ノ危險ノ程度ニ至リテハ推定ヲ容ル、ノ間隙無キヲ以テ契約ノ當時ニ當事者カ仔細ニ吟味シテ確認スルノ必要アリ即チ一ノ家屋カ火災ノ危險ニ臨ムノ程度ハ其位置、構造、性質、材料、之ヲ使用スルノ目的等ニ加フルニ契約ノ時期、期間ノ長短等ヲ考察セサレハ知ルヲ得サルナリ故ニ被保險者ハ是等ノ事情ニ付キ精密ニシテ確實ナル陳示ヲ爲スノ義務アリ此義務ニ反シテ危險ニ關スル重要ナル事項ヲ隱蔽若クハ虛陳シタルトキハ保險契約ノ要素タル危

險ニ就テ當事者ノ合意カ完全ナラサルカ故ニ契約ハ當然無効タリ故ニ保險者ハ保險金支拂ノ責ニ任セサルハ勿論初ヨリ過大ナル危險ヲ負擔シ來リタル報償トシテ保險料ヲ沒收スルコトヲ得ルモノトス。然リ而シテ重要ナル事項トハ如何ナル程度マデヲ重要ナリト看做スヘキヤト云フニ予ハ保險者ニ於テ豫メ重要ナリト指示シタル事項ニ限リテ爾云ハント欲スルナリ何トナレハ危險カ如何ナル原因事情等ニ因リテ成立スルヤト云フカ如キハ素人ナル被保險者ヨリ黑人ナル保險者ノ善ク知ル所ニシテ特ニ被保險者ハ其事項ノ不陳ニ由リテ契約ヲ無効トセラルハノ危險アルヲ以テ保險者ヨリ要求シタル範圍ニ限リテ被保險者ノ責任ヲ説カサルヘカラサルナリ。此ノ如ク危險其者ノミナラス危險ノ包容カ保險契約ノ要件ナルカ故ニ危險ノ包容カ中途ニ變更スルトキハ契約ノ効力ニ影響ヲ及ホスヘキハ勿論ナリ之ニ就テハ商法第四百十條第四百十一條及ヒ第四百四條第二項ニ綿密ナル規定アリ。

權利ヲシテ危險ナラシムルモノタルヲ免カレサルヲ以テ亦須ク顧慮セサル可カラス

「ラッペンバハ」氏曰ク「訴訟ノ提起ト課税及ヒ登記トヲ相連關セシムル方法モ亦之ヲ容易ニ潜脱スルコトヲ得可シ即チ若シ國家カ短期ノ貸資本ニ免税スルトキハ總テノ貸借ハ皆變シテ短期ノモノト爲リ而シテ期限至ルニ及ヒテ之ヲ延期スレハ此租税ヲ免カル、コトヲ得可シ」ト又千八百十五年制定ノ「バーデン」國資本税法ニ依レハ資本家ノ權利ハ全ク債務者ノ仁恵ノ下ニ在リト云フモ不可ナキナリ何トナレハ該法律ニ依レハ豫メ債務者ヨリ其債權者ニ對スル負債ノ關係ヲ登記シ其封筒ノ表ニ金額ヲ記シテ之ヲ當該官廳ニ差出サシム而シテ債權者ハ此表記ノ金額ニ對スル租税ヲ負擔スルモノナリ若シ債權者カ將來ニ於テ其元金又ハ利子ノ辨濟ヲ出訴スルトキハ裁判所ニ於テ右ノ封書ヲ開封シ若シ其出訴額カ量ニ債務者ノ登記セシ額ト符合シタルトキニ初メテ債權者ノ債權確定スルモノトス故ニ債務者ニシテ其表記ヲ偽ルトキハ債權者ハ毫モ得ル所ナケレハナリ又ベルン洲ノ利子税法ニ依レハ債權者カ豫メ其貸資本ヲ登記

簿ニ記入スルコトヲ要スト爲セリ

此等ノ登記モ亦唯之ヲ内國ノ貸借ノミニ適用ス可クシテ外國ニ於ケル貸借ニ及フコト能ハス故ニ内國ニ資本ヲ使用スルニ不利ニシテ外國ニ之ヲ抛下スルニ利アルニ至ル

曾テ多クノ人々ノ抱キシ希望ハ多クノ場合ニ於テ國家ハ相續監督者トシテ又相續稅徵收者トシテ殆ト後見人ノ如キ地位ニ立チ各人ノ相續財產ヲ知ルヲ以テ從テ各人ノ資本ヲモ亦知ルコトヲ得可シト云フコト是ナリ又一方ニ於テ監督ノ困難ナル資本利子ハ租稅ヲ免カレ其傍ニ監督ノ容易ナルモノハ課稅セラハコトアルニ於テハ多クノ場合ニ於テ殊ニ必要ナル資本適用ノ途ヲ杜絶スルコトアル可シ例ヘハ内國ニ於テ募集シタル國債ノ如キ或ハ抵當貸借ノ如キハ全ク資本ノ見藥ル所ト爲ルヘシ是最モ憂フ可キコトハス

若シ夫レ收益稅ノ本來ノ性質トシテ總テノ收益ハ唯一度課稅セラル、モノナリト云フトキハ或ハ土地改良ノ爲メ或ハ家屋建築ノ爲メ或ハ商業ヲ營ム爲メニ適用セラレタル資本ニシテ一タヒ之ヲ償還者ノ側ニ於テ課稅スルトキハ既

ニ再ヒ之ニ課稅スルコトヲ得サルヲ以テ債務者ノ側ニ於テハ土地家屋及ヒ商業ハ租稅義務ノ目的物ノ價格ノ中ヨリ之ヲ減除シテ計算セサル可カラサルハ勿論ナリトス若シ又此主義ニ反對スル所ノ說ニ從ヘハ嘗ニ私經濟ニ於テ負債ノ増加スル毎ニ租稅ノ源ハ富ムノ不合理ナル結果ヲ呈スルノミナラス諸般ノ事業ヲ有害のニ延期スルノ弊ヲ生ス可シ例ヲ示シテ其不當ナルコトヲ説明セシメ甲者カ十萬圓ノ資本ヲ借り之ヲ以テ家屋ヲ建築シタリ此場合ニ家屋ヨリハ家屋稅トシテ毎年五百圓ヲ徵收セラレ又償還者ハ其資本ヨリ利子稅トシテ五百圓ヲ徵收セラル、ニ於テハ同一ノ收益源ヨリシテ合計千圓ノ租稅ヲ負擔スルモノナリ然ルニ今若シ甲者自己ノ資本ヲ以テ其家屋ヲ建築シタルトキハ唯家屋稅トシテ五百圓ヲ負擔スルニ止マル可シ即チ同一ノ收源ニシテ前ノ場合ニハ千圓ヲ負擔シ後ノ場合ニハ五百圓ヲ負擔スルニ過キス是理ニ合ハサル結果ナリ此不合理ナル結果ヲ來ス所以ノモノハ一タヒ課稅シタル收益源ニ再ヒ課稅スルヨリ生スルモノナリ家屋建築ノ場合既ニ然リ土地改良其他商業ノ場合モ亦同シカラサルヲ得サルナリ

「リッリッ」氏ハ千八百四十八年刊行「チェーピング」雜誌第三百二十號ニ於テ之ニ反對ノ説ヲ述ヘタリ

此ノ如ク直接ニ差引ヲ爲スヲ利益トスルカ又ハ間接ニ義務者ナル所有者租税ヲ支拂ヒ而シテ後ニ權利者ニ利子ヲ支拂フニ際シテ其前ニ立替ヘジ税額タケヲ控除スル方法ヲ利トスルカハ一ノ疑問ナリ此間接法ヲ主張スル學者ハ「フオッケー」氏ニシテ之ニ反對シテ直接法ヲ主張スル學者ハ「モーフレー」氏ナリトス英國ノ所得税法ハ間接法ヲ採用シ又「ブルテンブルグ」ノ千八百二十年制定ノ法律ニ依レハ此税ヲ義務者ニ補ハシメタルトキハ其額十五倍以上ノ罰金ヲ課スルコト、爲セリ是レ利子税ヲ義務者ニ移轉スルコトヲ防キタルナリ此間接法ハ外國ノ權利者ニハ之ヲ適用スルコトヲ得サルモノニシテ政府ノ爲メニハ便宜ナル方法ナリト雖モ其間種々ノ奸曲ヲ施スノ餘地ヲ存スルカ爲メニ種々ノ爭議ヲ生スルモノナリ加之間接法ノ場合ニハ債權者モ其課税ヲ義務者ニ移轉スルコト更ニ容易ナリトス蓋シ實際ニ於テハ利子税ノ移轉ナルコトハ財政學者ノ豫想スルカ如ク恐ル可キモノニハ非ス假令此利子税ヲ賦課スルモ資本家ノ取

ルヘキ利子ノ割合ハ到底或程度ヲ越エテ下落スルモノニアラサルナリ何トナレハ若シ資本家ノ收ムヘキ利子ノ割合ニシテ或ル程度以下ニ下落スルトキハ資本家ハ直ニ之ヲ外國ニ適用スルカ爲メニ資本ノ外國ニ移出スルカ如キ結果ヲ來スノ外ナカル可シ此事ニ關シテハ資本ニ富ミタル小國ニシテ外國ニ接近シ外國ニ資本ヲ抛下スルニ慣熟セル國ト否ラサル國トノ間ニ著シキ差アリ會社ノ配當利益ニ課税ス可キヤ否ヤハ亦一ノ問題ナリト雖モ第一配當利益ニ利子税ヲ課スルモ其目的ヲ達セサル可シ若シ此ノ如クスルトキハ後ニ株券ヲ額面價格以上ニ買込ミタル者ハ最初ノ株主ニ比シテ重ク負擔スルノ結果ヲ呈ス可シ寧ロ全体ノ事業ニ營業税ヲ課スルノ優レルニ如カス若シ又一タヒ會社全体ニ所得税ヲ課シタル以上ハ再び各株主ニ其會社ヨリ得タル收入ニ對シテ課税スルコトヲ得サルナリ然ルニ澳國ニ於テハ二重ニ之ニ課税シ普通ニ於テハ各株主ニ付テ其配當利益ニ課税シ其代リニ會社ニハ課税セサルナリ

第三十八節 營業税(グベルベ、ストイエル)

狹義ニ於ケル營業税トハ其收益ノ種々ノ生産要素共同ノ作用ノ結果ニシテ之

ヲ分別スルコトノ甚タ困難ナル事業ニ直接ニ課スル所ノ租税ナリ抑モ營業稅ナル語ハ國ニヨリ種々ノ意義ニ用ヰラレ從テ其種類モ亦甚タ異ナル者アリ「バーデン」如キハ農業者ニ地租ノ外ニ營業稅ヲ課スルノ制アリ英佛獨等ニ於テハ勿論此事ナク又澳佛等ニ於テハ學事の事業辯護士ノ事業公證登記ノ事業等ニハ營業稅ヲ課セリ此等ノ場合ニハ資本ナルモノ、作用ヲ見サルナリ

「スタイン博士」ハ營業稅ヲ三種ニ分チ第一ヲ企業稅トシ機械ト信用トヲ以テ營業事業ニシテ資本遙カニ勞力ノ上ニ立ツモノヲ云ヒ第二ヲ營業稅トシ勞力ト資本ト相當ニ相俟ツモノヲ指シ第三ヲ貨銀稅トシ勞力ノ資本ヨリモ主タル地位ヲ占ムルモノヲ云フトセリ以テ營業稅ノ範圍ノ漠然タルヲ知ル可シ然レトモ通常營業稅トハ商業及其補助事業即チ銀行又ハ通運事業製造工藝建築事業旅舍事業貸馬車演劇等ノ事業ニ課スルモノヲ云ヒ鑛山會社ノ事業ハ多クハ特別ノ租稅ヲ課セラル是蓋シ鑛業ニ於テハ其材料會社ニ於テハ其定款ニ稅制上大切ナル特質ヲ具フレハナリ

農業ニハ地租ノ外ニ營業稅ヲ課ス可キヤ否ヤノ問題アリ理論上之ヲ課ス可シ

ト云ヘリ而シテ之ヲ課スルニ地主ノ耕作スルト借地人ノ耕作スルコトトヲ區別セス之ヲ同様ニ課稅ス然レトモ借地人ニ課稅スルニハ收穫中ヨリ借地料ヲ扣除シ其殘額ニ課稅ス可シト千八百五十一年以來「バイマール」州ハ此法ヲ實行セリ植木師ニモ亦營業稅ヲ課ス可キナリ理論上農業ニモ營業稅ヲ課ス可キモノナレトモ實際各國現今ノ地租ノ基礎タル土地臺帳ハ決シテ完全ナルモノニ非ス故ニ之ヲ基礎トシテ課スル所ノ地租ハ純粹ノ地租ニ非スシテ農業ニ使用シタル資本ノ利子稅及其勞力ニ課スル貨銀稅ヲモ包含セル者多シ故ニ純粹ノ地租ナルトキハ其傍ニ營業稅ヲ課スルモ不可ナキモ今日ノ地租ト併課スルハ不當ナリト云ハサル可カラス「ラウ」氏ノ如キモ亦農業ニ營業稅ヲ課スルコトハ

大ニ考慮ヲ要ス可シト云ヘリ

而シテ營業稅ノ場合ニ於テハ營業稅ト物價トノ關係ヲ知ラサル可カラス即チ其物價ニ及ホス影響及ヒ營業稅ヲ課スル爲メニ一方ニ輕シ一方ニ重ク從テ營業ノ自由ノ競爭ヲ妨クルコトナキカヲ考ヘサル可カラス故ニ同一ノ事業ヲ營業各自ニ果シテ比例的ニ課稅セルヤ否ヤハ此租稅ニ於テ最も緊要ナリト又

各種ノ營業ニ比例的ニ課税セルヤ否ヤモ亦考究ス可キ要件ナレトモ同一ノ營業者ノ各自ニ比例セルヤ否ヤノ如ク必要ナルモノニ非ス故ニ彼生産組合消費組合ノ如キハ其働ヲ内部ノ組合員ノミニ止メ曾テ外部ノ課税セラレタル者ト競争セサル間ハ之ニ課税ス可キ限ニ在ラス然レトモ若シ其取引ヲ外部ニ及ホストキハ之ニ課税セサル可カラス否ラサレハ一方ニ課税シテ一方ニ免税スルノ結果ヲ生ジ自由ノ競争ヲ妨得スルニ至ル可ケレハナリ

營業稅ヲ首唱シタル學者ハ千六百十二年ボルニツ氏ニシテ始メテ此租稅ノ起リタルハ第十四世紀ノ頃伊太利ノ市府ニ於テシタリ現今ハ英國ノ制度ト歐洲大陸ノ制ト其發達ヲ異ニシ從テ課税ノ方法ヲ同フセサルナリ

第三十九節 營業稅賦課法

抑モ營業稅ハ收益稅ノ制ヲシテ完全ナラシムルニ必要缺ク可カラサルモノナレトモ租稅ノ賦課ノ困難ナル就中營業稅ヲ以テ最トス何トナレハ各營業者ノ純收益ヲ知ルハ頗ル困難ニシテ營業者自ラモ亦之ヲ知ルコト難ク年々變動ヲ生スルモノナレハナリ但銀行株式會社等ニ在テハ其營業ノ結果ヲ公示スルヲ

第六章 商業使用人

本章及次章ハ商人ノ商業上ノ機關タルヘキ者ヲ規定セリ本章ハ舊商法第一編第五章代務人及ヒ商業使用人ニ該當スルモノニシテ舊法ノ所謂代務人ト商業使用人トヲ總稱シテ商業使用人ト名ケタルナリ商業使用人ト商業主人トノ關係ハ設定行爲ニ基クモノニシテ此設定行爲ノ趣旨ニ從ヒ商業使用人ノ權利義務一様ナラス此權利義務ノ態様ニ從テ法律ハ更ニ商業使用人ニ種々ノ名稱ヲ區別シ支配人手代番頭等ト稱スルナリ

商業使用人ヲ設定スル行爲ハ總テ民法上ノ行爲ナリ(委任、雇傭、代理權ノ授與等)故ニ商業使用人ノ權利義務又ハ主人ト第三者トノ關係ニシテ商事上特別規定ヲ要セサルモノハ商法ニ於テ規定スル必要ナシ是レ新商法カ舊法ノ代務人及ヒ商業使用人ニ關スル數多ノ規定ヲ削除セシ所以ナリ

商業使用人ヲ分テ二種トス一ハ主人ニ代リテ法律行爲ヲ爲スコトヲ得ル權限ヲ有スル者ナリ二ハ主人ニ代リテ法律行爲ヲ爲ス權限ヲ有セサル者ナリ第一種ニ屬スル者ハ支配人手代番頭等ナリ支配人手代番頭ニ非サル商業使用人ハ

第二種ニ屬スル者ト推定セラル(第三十四條然レトモ實際此二種ノ商業使用人ハ必ス常ニ判然タル區別アルモノニ非ス即チ支配人ニシテ法律行為ニ非サル事務ヲモ擔任スル者アリ又支配人手代番頭ニ非ズシテ法律行為ヲ爲スヘキ委任ヲ受タル者アルナリ第一種ノ内更ニ支配人手代番頭トハ權限ノ性質ニ區別アリ支配人ノ權限ハ法律上一定ノ範圍アリ主人ハ之ヲ制限スルコトヲ得ルモ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルナリ手代又ハ番頭ノ權限ハ之ニ反シテ其代理權ノ範圍ハ一ニ代理權設定行為ノ旨趣ニ因リテ定マリ法律上ノ定限ナシ

第一節 代理權アル商業使用人

第一 支配人

商人ハ其本店又ハ支店ニ於テ其商業ヲ營マシムル爲メニ支配人ヲ選任スルコトヲ得新商法ハ支配人選任ノ方法ハ總テ民法ノ代理權設定方法ニ依ルヘキモノトシ選任ヲ登記セシムル外別段ノ規定ヲ設ケス舊商法ニ於テハ支配人ノ選任ニハ明示ノ委任ヲ要スルコトヲ規定セリト雖モ已ニ登記セシムル以上ハ必

スシモ明示ノ委任ヲ必要トセサルヲ以テ削除セリ

支配人選任ニ關シテ二問題アリ一ハ未成年者ニ代リテ商業ヲ營ム法定代理人ハ支配人ヲ選任スルコトヲ得ルヤ二ハ共同支配人ヲ選任スルコトヲ得ルヤ是ナリ

獨逸新商法ハ其第四十八條ニ於テ法定代理人カ支配人ヲ選任シ得ルコトヲ明定セリ我商法ハ此點ニ關シテ規定スル所ナキヲ以テ民法ノ法定代理人ノ權限ニ關スル規定ヨリ推論セサルヘカラス親族篇ノ規定ニ從ヘハ法定代理人ハ未成年者ニ代リテ營業ヲ爲スコトヲ得(但親權ヲ行フ母又ハ後見人ハ親族會ノ認許ヲ要スト)雖モ營業ヲ爲スコトヲ得ル權限ハ當然ニ支配人ヲ選任スルコトヲ得ル權限ハ自ラ爲スコトヲ得ル權限ニシテ他人ヲシテ代リテ爲サシムルコトヲ得ル權限ニアラス故ニ代理權設定者又ハ法令カ特ニ認許セサル以上ハ代理人ハ其權限行為ヲ他人ニ委任スルコトヲ得サルナリ是レ一般代理ニ關スル原則ニシテ法定代理人ト雖モ亦然リ故ニ法律ハ代理人カ復代理人又ハ代理人ヲ

選任スルコトヲ得ヘキ場合ハ特ニ之ヲ規定スルヲ常トス是レ即チ民法第四百
 條第六條ノ規定アル所以ニシテ若シ此規定ナクハ法定代理人ハ復代理人
 ヲモ選任スルコトヲ得サルナリ故ニ法律ハ特ニ規定ナキ以上ハ法定代理人ハ
 支配人ヲ選任スルコトヲ得スト解釋セサルヘカラサルカ如シ或ハ復代理ノ規
 定ニ依リ支配人ヲ選任スルコトヲ得ルニ非スヤト疑フ者アルヘシト雖モ復代
 理ハ代理人ノ代理人ナルヲ以テ民法第七條ノ規定ニ依リ恰モ代理人ト同一
 ノ權限ヲ有スト雖モ仍其直接ノ本人即代理人トノ關係ヲ失ハサルカ故ニ本代
 理人ハ復代理人ノ行為ニ付キ責任ヲ負ヒ隨テ復代理人ハ本代理人ニ對シ一定
 ノ義務ヲ負フナリ然ルニ支配人ノ權利義務ハ直接ニ本人ニ對スル權利義務ニ
 シテ本人以外ノ人ニ對スル權利義務ニ非ス假リニ本人ヨリ支配人選任ノ權限
 ヲ特ニ委任セラレタル代理人ニ依リテ選任セラレタル支配人アリトスルモ一
 旦支配人トシテ選任セラレタル以上ハ其權利義務ハ本人ト直接ノ關係ニ立ツ
 モノニシテ其ノ選任ヲ委任セラレタル者トノ間ニ些ノ法律關係ナキモノトス
 故ニ復代理選任權ヲ以テ支配人ヲ選任スルコトヲ得サルナリ此ノ如ク論スル

トキハ法定代理人ハ手代番頭等ノ商業使用人ヲモ選任スルコトヲ得サルカ如
 シ然ルニ支配人ハ第三十條第二項ニ依リテ之ヲ選任スルコトヲ得ルヲ以テ甚ク
 權衡ヲ得サルカ如シ或ハ法ノ不備ニ非サルカ疑ヲ存ス

舊商法及ヒ獨逸商法ハ共ニ共同代務人ヲ認メタリ然ルニ新商法ニハ其規定ヲ
 削除セリ是ニ於テ解釋上共同支配人ヲ置クコト得ルヤ否ヤノ疑問ヲ生ス按ス
 ルニ此問題ハ支配人ノ共同ハ支配人ノ代理權ノ制限ト爲ルヤ否ヤノ問題ニ歸
 スルナリ抑モ共同支配人トハ如何ナル權限ヲ有スルモノナルヤ獨逸現行商法第
 四十四條ニハ共同代務ニ在リテハ各代務人ハ其名ヲ商號ニ附記セサルヘカラ
 スト規定セリ獨逸新商法ハ此規定ヲ以テ當然ナリト爲シ削除セリ又我舊商法
 第四十四條ニ依レハ共同代務人ハ總員共同ニ非サレハ代理行為ヲ爲スコトヲ
 得ス此等ノ規定ニ就テ所謂共同支配人ノ權限ヲ推測スルトキハ共同者ノ各人
 ハ獨立シテ支配人ノ全權ヲ有スルモノアラサルハ勿論支配人ノ權限ヲ分別シ
 テ各人カ之ヲ分擔スルノ謂ニアラス恰モ共有者ノ權利ノ如ク各人カ支配人ノ
 事務ノ各部ニ權限ヲ有シ而モ其ノ權限ハ完全ナル代理權ニ非スシテ他ノ支配

人ト共同シテ始メテ行フコトヲ得ヘキ權限ナリ即チ共同支配人總員カ一支配人タルナリ此總員ヲ以テ一支配人ト見ル以上ハ支配人ノ權限ハ一モ制限セラレタル所ナシ已ニ支配人ノ權限ヲ制限シタルモノニアラストスレハ法律ノ禁スル所ニ非サルヲ以テ共同支配人ヲ選任スルコトヲ妨ケサルナリ此ニ注意スヘキハ支配人ノ權限ヲ共同シテ行ハシムルコトハ妨ナキモ權限ヲ區分シテ數人ニ分與スルコトハ爲シ得サルナリ支配人ノ權限ヲ數人ニ分與スルトキハ各員ハ其分擔事務ニ付テハ專權ヲ有スト雖モ他ノ事務ニ關シテハ些ノ權限ヲ有セス是レ支配人ノ權限ヲ共同ニ行フモノニ非スシテ各部分ノ事務ニ付キ完全ナル代理權ヲ有スルノミ夫レ支配人ノ權限ハ法定ニシテ分割スルコトヲ得ス之ヲ分割スルトキハ手代番頭等ノ代理權ト同種ニシテ復タ支配人ノ權限ニ非ス然レトモ主人ノ營業ニシテ數多ノ營業所支店アル場合ノ如キアル場合ニ於テ各營業所ニ支配人ヲ置キ其營業所ノ事務ニ付テノミ支配人ノ權限ヲ附與スルハ法律ノ許ス所ナリ第二十九條ニ曰ク商人ハ支配人ヲ選任シ其本店又ハ支店ニ於テ商業ヲ營マシムルコトヲ得下即チ本店又ハ支店ノ事務ニ專任ノ支配

人ヲ置クコトヲ認メタルナリ而シテ此場合ニ於テハ其所管營業所ノ事務ニ關シテハ一切ノ權限ヲ有スルモノナリ
 支配人ハ主人ニ代リテ其商業ヲ營ミ其商業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス而シテ支配人ハ民法第百四條ノ規定ニ依リ其事務ニ關シ復代理人ヲ選任スルコトヲ得ト雖モ特ニ主人ノ委任アルニ非サレハ自己ニ對シテ全ク獨立セル手代番頭其ノ他ノ使用人ヲ選任スルコトヲ得サルヘシ然レトモ已ニ商業ニ關スル一切ノ代理權ヲ有スル者ナルヲ以テ之ニ手代番頭等ノ使用人ヲ選任解任スル權限ヲ認ムルハ實際ニ便利ニシテ寧ロ主人ノ意思ニモ適フナリ故ニ法律ハ明カニ之ヲ支配人ノ權限ニ屬セシメタリ第三〇條第二項然レトモ支配人カ支配人ヲ選任スルコトヲ許サ、ルナリ
 上述ノ如ク支配人ハ商業ニ關スル一切ノ事務ニ代理權ヲ有シ又支配人ノ外總テノ商業使用人ヲ選任解任スルコトヲ得ル權限ヲ有ス此ノ如ク支配人ノ權限ハ法律ニ依リ其範圍一定ス是レ支配人カ手代番頭等ト異ナル所ナリ然レトモ主人ハ支配人ノ法定權限ヲ制限スルコトヲ得ヘシ但此制限ヲ以テ善意ノ第三

者ニ對抗スルコトヲ得ス(第三〇條第三項)獨逸商法ニ於テハ支配人ハ不動產ノ讓渡貸貸及ヒ不動產所有權ニ制限ヲ受クヘキ行爲ニ付テハ特ニ委任アルニ非サレハ代理權ナシト雖モ其權限ノ制限ハ第三者ニ對シテハ善意惡意ヲ問ハス絶對ニ効力ナシ抑モ善意ト惡意トハ之ヲ判別スルコト甚タ難シ故ニ支配人ノ權限ノ制限ハ第三者ニ對シテハ絶對ニ効力ナシト規定スルコト便利ナルカ如シ然レトモ是レ我國ノ習慣ニ非サルノミナラス此制限ヲ知リテ支配人ト取引セル者ハ支配人自身ト取引スル意思ニ非スハ主人ノ追認ヲ得テ始メテ有効ト爲サントスル意思ヲ以テ取引セルモノト謂ハサルヘカラス然レハ法律力強テ之ヲ主人ノ行爲ト看做シテ主人ニ責任ヲ負ハシムル必要ナキナリ且夫レ惡意ナルコトヲ證明スル責任ハ主人ニ在ルヲ以テ無辜ノ第三者ヲ害スルコトハ少カルヘシ

支配人ノ權限ハ法定ニシテ其範圍極メテ廣シ故ニ主人ノ信用ヲ負フコト亦隨テ大ナリ是ヲ以テ支配人ハ主人ノ商業ノ爲メニ其全力ヲ盡ササルヘカラサルハ理ノ當ニ然ルヘキ所ナリトス故ニ法律ハ支配人ヲシテ此忠實義務ヲ盡サシ

メンカ爲メニ支配人ハ主人ノ許諾アルニ非サレハ自己又ハ第三者ノ爲メニ商行爲ヲ爲シ又ハ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得スト規定セリ蓋シ合名會社合資會社等ノ無限責任社員ハ必スシモ其會社ノ事務ヲ執行スルモノニ非スト雖トモ其會社ト利害關係甚タ深密ナルカ故ニ主人ノ營業ト利害ノ衝突ヲ來スコトナシトセサルナリ株式會社ノ取締役ノ如キハ其ノ會社即^{第三〇條}三者ノ爲メニ商行爲ヲ爲スモノナルヲ以テ支配人ハ取締役ニ選任セラレハコトヲ得ス此ニ注意スヘキハ此支配人ノ行爲ニ關スル禁止規定ト似テ非ナルモノアリ代理商第三八條及ヒ株式會社ノ取締役第一七五條ノ禁止規定是ナリ代理商又ハ取締役ニ關シテハ本人ノ營業ニ屬スル商行爲ヲ爲スコト又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ禁シタリ是レ代理商又ハ取締役ニ在リテハ主トシテ利害ノ衝突ヲ恐レタルナリ之ニ反シテ支配人ハ單ニ利害ノ衝突ヲ避クヘキノミナラス主人ノ商業ノ爲メニ全力ヲ盡スヘキモノト爲シ營業ノ同種ト否トヲ問ハス總テノ商行爲ヲ禁シ又一般ニ商事會社ノ無限責任社員タルコトヲ禁シタルタルナリ

支配人カ此禁止ニ違反シテ自己ノ爲メニ商行爲ヲ爲シタルトキハ主人ハ之ヲ以テ自己即チ本人ノ爲メニ爲シタルモノト看做スコトヲ得第三十二條第二項此權利ハ支配人ニ對スル權利ニシテ之ヲ以テ第三者即チ相手方ニ對抗スルコトヲ得ス故ニ本人ハ唯支配人ニ對シテ其行爲ヨリ得タル物件又ハ權利ノ移轉ヲ請求シ得ヘキノミ而シテ此權利ハ其行爲ヲ主人カ知リタルトキヨリ二週間之ヲ行ハサルトキ又ハ行爲ノ時ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ消滅ス

支配人ノ權限ハ民法ノ代理權消滅原因ニ因リテ消滅ス支配人代理權ノ消滅ハ之ヲ登記スルコト要ス乃チ支配人ノ選任及ヒ其代理權ノ消滅ハ登記ニ因リテ第三者ニ對シ効力ヲ生スルナリ

注意 支配人ハ必ス支配人ト稱スルコトヲ要スルヤ或ハ他ノ名稱ヲ附スルコトヲ得ルヤ法律ニ規定ナシ然レトモ特ニ之ヲ禁セサル限リハ他ノ名稱ヲ附スルモ妨ナカルヘシ但支配人ニ非サル者ハ支配人ト稱スルコトヲ得スト信ス何トナレハ商法施行法第十九條ニ於テ從來支配人又ハ支配役ト稱スル者ニシテ支配人ノ權限ヲ有セサル者ハ商法施行ノ日ヨ

リ三ヶ月内ニ其名稱ヲ改ムヘキコトヲ命シタルヲ以テ商法ハ支配人ニ非サル者ハ支配人ト稱スルコトヲ許サ、ル精神ナリト解釋セサルヘガラサレハナリ又立法ノ理由ヨリ推測スルモ支配人ノ權限ハ甚タ強大ナル法定權限ナルニ支配人ニ非サル者ヲシテ支配人ナル名稱ヲ借用セザルハ公衆ヲ惑ハスノ恐アルナリ然レトモ商法施行後ニ於テ支配人ニ非スシテ支配人ト稱スル者アラハ之ヲ如何ニ處置スヘキカ商法施行法第十九條第二項ハ商法施行前ヨリ支配人又ハ支配役ト稱スル者ニ關シテハ之ヲ支配人ト看做スト規定セルニ拘ハラス商法施行後ニ支配人ト稱スル者ニ關スル規定ナキヲ以テ之ト取引ヲ爲シタル第三者ハ本人ノ追認ヲ求ムルカ又ハ民法第百十條又ハ損害賠償ノ規定ニ依リ救済ヲ求メサルヘカラス

第二 手代、番頭

手代及ヒ番頭ハ代理權ヲ有スル商業使用人ナリト雖モ其代理權ノ範圍ハ法律上一定セスレ手代及ヒ番頭カ支配人ト異ナル要點ナリ手代及ヒ番頭ノ權限

ハ法律ニ定限ナキヲ以テ商人ハ其代理權設定行爲ニ由リテ其範圍ヲ定メ即チ或種類又ハ特定ノ事項ヲ隨意ニ委任スルコトヲ得ヘシ而シテ一人ノ手代又ハ番頭ニ其營業ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ與フルコトモ得ヘシ此ノ如ク一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ與ヘラレタル場合ニ於テハ手代又ハ番頭ト支配人トハ如何ノ差異アルヤ其權限ノ廣狹ニ區別ナキコト明ナリ而シテ手代又ハ番頭ノ權限モ代理權ナリ支配人ノ權限モ亦代理權ナリトスレハ權限ノ性質モ亦區別スルコトヲ得サルナリ之ヲ要スルニ手代番頭ト支配人トノ區別ハ一ハ法律ニ由リテ其權限一定セラレ之ヲ制限スルモ善意ノ第三者ニ對シ効力ナキト一ハ其權限ノ範圍ハ本人ノ隨意ナルトニ在リ即チ兩者ノ區別ハ全ク權限ノ形式的効力ニ在ルナリ

番頭手代ノ權限ハ各其設定行爲ニ由リテ定マルト雖モ設定行爲ニ於テハ毎ニ完全ニ其權限ノ限界ヲ示スコト稀ナルヲ以テ法律ハ豫メ規定ヲ設ケテ設定行爲ニ示シタル事項ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スルコト、セリ第三十三條第二項此ニ關スル一切ノ行爲ト謂フハ抽象的ニ其限界ヲ示スコト難シ

各事件ニ就キテ判斷スルコトヲ要ス唯大體通常其事項ニ伴ヒテ起ルヘキ行爲ト謂フ如ク解釋スヘキカ(第三十條第一項亦同シ)

第二節 代理權ナキ商業使用人

支配人手代番頭ニ非サル商業使用人ハ代理權ナキ者ト推定セラル尤モ此推定ハ反對證固ヲ許スヲ以テ支配人手代番頭ニ非サル商業使用人ト雖モ有効ニ代理權ヲ受タルコトヲ得ヘシ然レトモ其代理權ニ關シ特別ノ規定ヲ設ケス全ク普通ノ代理法則ニ從フヘキモノトス而シテ實際ニ於テハ支配人手代番頭ニ非サル商業使用人ハ多クハ單ハ雇傭契約ニ因ルモノニシテ唯臨時特定ノ法律行爲ノ委任ヲ受タルコトアルノミ(丁稚小僧ノ如シ)然レトモ此等ノ商業使用人ニシテ又往々或種類ノ商行爲ニ關シテ代理權ヲ有スル者アリ通常店舗等ニ於テ日常ノ取引ヲ爲ス者ノ如キ屢見ル所ナリ舊商法第五十二條ニハ此等ノ商業使用人ニ代理權アリト看做スヘキ場合ヲ規定シテ曰ク商業使用人カ商業主人ノ爲メニ店舗倉庫及ヒ其他ノ營業場ニ於テ或業務ヲ辨スルトキ又ハ他所ニ送還セラル、トキ又ハ帳場ニ於テ第三者ト取引ヲ爲スニ際シ主人ヨリ制止セラレ

ス若クハ第三者ノ間ヲ受ケテ己レ之ヲ爲ス權アリト答ヘタルトキハ殊ニ其職分ノ範圍ニ付キ置カレタルモノト看做サル」ト然レトモ此規定ノ適用ヲ受ケヘキ者ノ多數ハ手代番頭ナルヘク又手代番頭ニ非サル者ニ關シテハ便利ナル規定ナルカ如シト雖モ此般ノ事ハ普通商習慣ニ依リテ自ラ定アルヲ以テ特ニ之ヲ規定スルノ要ナシ

第七章 代理商

代理商ナル名稱ハ新商法ニ創メテ現ハレタルモノナリ現行商法ニハ代辦人ナル名稱ヲ用ヒタリ代辦人ト代理商トハ稍其性質ヲ同シスルモ又相異ナル點少カラス商法第一編第七章舊商法第一編第八章第二節參照

代理商ハ獨立ノ商人ナリ其獨立ノ商人ナルコトハ新商法第三十六條第四條及ヒ第二百六十四條第十二號ニ依リテ明白ナリトス舊商法ノ代辦人モ亦商人ナルコト舊法第四百六條及ヒ第五條第三號第四號及第九條ニ依リテ明カナリ代理商カ獨立ノ商人タルノ點ハ前章ニ規定セラレタル商業使用人ト區別アル所ナリトス今代理商ノ規定ノ位地ヲ見ルニ舊商法ニ於テハ代辦人ノ規定ヲ仲立

人仲買人運送取扱人等ノ諸商人ト同一ノ章ニ掲ケタルニ拘ラス新商法ハ代理商ノ規定ヲ第一編總則中商業使用人ノ次位ニ設ケタリ蓋シ代理商ハ他ノ商人ノ爲メニ商行爲ノ代理又ハ媒介ヲ爲スヲ營業トスルモノニシテ其商人ノ爲メニ一ノ商業機關トシテ平常連續的ニ商行爲ヲ爲スモノナレハ縱令商業使用人ト其性質ヲ異ニスルモ其委任者ヨリ見レハ恰モ商營使用人カ營業ニ關シテ主人ノ爲メニ動作スルト頗ル類似セルモノナリ是レ新商法カ商業使用人ニ次々ト本章ノ規定ヲ設ケタル所以ナリ

第一 代理商ノ定義

代理商ノ定義ハ新商法第三十六條ニ之ヲ規定セリ曰ク

代理商トハ使用人ニ非スシテ一定ノ商人ノ爲メニ平常其營業ノ部類ニ屬スル商行爲ノ代理又ハ媒介ヲ爲ス者ヲ謂フ

此規定ニ依リ代理商ノ定義ヲ分拆説明スレハ

(一)代理商ハ平常商行爲ノ代理又ハ媒介ヲ以テ營業トスル者ナリ
平常ナル文字ハ連續的ノ意味ヲ有スルモノニシテ是レ普通ノ代理ト異ル所ナ

リ舊商法ニ於テハ代辦人ハ單ニ商行爲ノ代理ヲ營業トスルモノナルコトヲ定メタルモ新商法ハ其範圍ヲ擴張シテ商行爲ノ媒介ヲ營業トスル者ヲモ代理商中ニ包含セシメタリ蓋シ商行爲ノ代理ヲ爲ス者ト媒介ヲ爲ス者トハ實際相兼スルコト多キノミナラス兩者ニ各別ノ規定ヲ設クル必要ナケレハナリ

(二)一定ノ商人ノ爲メニスル商行爲ノ代理又ハ媒介ヲ爲スモノナルヲ要ス一定ノ商人ノ爲メニスル商行爲ノ代理又ハ媒介ノ委任者ノ定マリアルコトヲ要スル意味ナリ代理又ハ媒介ニシテ委任者ノ何人タルヲ問ハサルカ如キハ代理商ニ非サルナリ委任者ノ數ハ多數ニテモ妨ナシ其委任者ノ爲メニ繼續シテ代理又ハ媒介行爲ヲ爲スコトヲ要ス是レ代理商カ媒介行爲ノミヲ爲ス場合ト雖モ仲立人ト其性質ヲ異ニスル所以ナリ仲立人ノ委任者ハ一定セス又其委任ハ必スシモ連續的ノモノニアラス(第三百五條)

(三)代理商ハ使用人ニアラサルコトヲ要ス

商業使用人ハ主人ノ營業ニ關シテ一ニ主人ノ機關トシテ商行爲ヲ爲スモノナリ代理商ハ固ヨリ委任者タル商人ノ營業ヲ補助スル商業機關ニハ相違ナキモ

明治三十二年八月廿四日印刷
明治三十二年八月廿五日發行

東京市四谷區四谷仲町三丁目六番地
編輯者 小田幹治郎
東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地
印刷者 金子鐵五郎
東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地
印刷所 金子活版所

發行所 司法省 和佛法律學校

所在 東京市麹町區富士見
町六丁目十六番地
電話 番町百七十四番

明治廿二年十一月九日内務省許可

送金券 注意

本號ニ添附シタル送金券ハ校外生
月謝拂込ノ際各欄内ヘ相當ノ記入
ヲ爲シ送金ト共ニ必ス送付可相成
候也
若シ本券ノ添送ナキトキハ事務取
扱上混雜ヲ來シ講義錄發送上遅延
ノ恐レアリ
尙ホ今後ハ各號發送ノ際又ハ同時
ニ數葉送呈スヘキニ付キ爾後ハ必
ス右ノ手數ヲ煩シ度候也